

# 文化の力

Vol. **05**

— 知のフィールドへ! —

2021  
March



**特集** コロナ禍の大学

高知県立大学文化学部編集発行

# contents

## 1 特集 コロナ禍の大学

- 12 学生研究報告1「留学生誌面発表会」
- 14 文化学部生ってどんな人?
- 16 学部生が作った!診断コーナー「どの領域に向いているかな?」
- 17 学生研究報告2「県大かるたをつくろう!」
- 20 ここが私のHometown!
- 22 地域学実習徹底紹介!
- 24 No Teacher NO University
- 26 先生の専門分野についてもっと教えてください!
- 28 卒業研究タイトル一覧
- 30 あとがき



文化の力Vol.5 ~知のフィールドへ!~

高知県立大学は、高知市中心部にあります。  
歴史と文化に恵まれた地域で、学生たちは活動  
しています。

表紙の写真は、高知県立大学の学生が授業  
で作成した「県大かるた」

県大とその周辺の「面白いもの」を探して、ひと  
こと添えました。

永岡 幸の窓から 第2回

### コロナ禍の生活の中で 大事にしていること

大村 誠(地学・地理学研究室)

「コロナ禍の生活の中で大事にしていること」を問われたら、「オンライン授業を予定通り、対面授業と比べて教育効果を落とさず行う努力と工夫をすること」に尽きます。本学の教員・職員の方々も同じ思いで頑張っておられると思います。仲間と集まることができず、不安を感じつつも、学生さんたちも、それぞれのネットワーク、機材の制約のなかで奮闘されていると思います。

オンデマンド型の遠隔授業では、これまでの経験をもとに、ネットワークの向こうの多様な学生さんたちの反応を想定しながら資料をつくり、参照の適切な外部サイトを探す必要

があり、多くの時間とエネルギーを要します。

私が1990年に大学教員になり、高知に来た時「次の南海地震」まであと45年くらいと思っていました。気がつくのとあと15年ほどに迫りましたが、まだ起きていません。ところが、考えてもみなかった「感染症パンデミック」は、2009年「新型インフルエンザ」に続き、2回目となりました。新しい感染症も、これからは「よく起きる災害」の一つになるのかもしれない。そのようなときには落ち着いて、切り替わる「新しい大学」の姿と価値を考えて対応したいところです。しかし実際に「渦」に巻き込まれているときは、それどころではなく、「次回の授業の準備」に追われ続けるような気がします。まず、今回の「新型「コロナ禍」を、励まし合って皆で切り抜けることを願っています。



特集

# コロナ禍の大学

1回生に聞いてみた  
「コロナ禍の大学生活はどうだった？」

オンライン授業は大変だった？

友達はどうやって作った？

異例の状況で始まった大学生活。

1回生はどう感じていたのか、

3回生が1回生に聞いてみました！

学生対談

自己紹介

田中理那  
寮暮らし

出身地：和歌山県  
趣味・特技：文具収集、  
人の顔と名前を覚える  
こと、テレビを見ること

田中理子  
実家暮らし

出身地：高知県  
趣味・特技：音楽を聴  
くこと、映画鑑賞

千田萌愛  
一人暮らし

出身地：島根県  
趣味・特技：料理、身体  
を動かすこと、美味しい  
ものを食べること

## はじめはMoodleの使い方に苦戦…

### いきなりMoodleで大変でした

**濱吉**：1回生、入学してからオンライン授業が多かったと思うんですけど、大変だったこととかありますか？

**田中理那**：私は、最初、Moodle<sup>1</sup>での課題提出の仕方がなかなか分からなくて苦戦しました。あとは先生とか周りのみんながいないことで、授業に対する…その、何ていうんですかね、熱量というか、あまり授業を受けているっていう実感が湧かなくて、やる気が起こらなかつたりしました。

**濱吉**：なるほど。

**田中理子**：最初は、私も理那ちゃんと同じでMoodleの使い方が分からなくて、何度も提出してしまったりとか訂正したりしたこともあって…。あとは、オンライン授業でずっとパソコンを見ているので、目が疲れてきたりというのはありました。

**千田**：私も一緒に、パソコンの操作に慣れることが大変でした。あとは、履修登録が難しく苦戦しました。

**濱吉**：Moodleの使い方とか、オンラインの課題を提出したりとか、やり方が分からなかったと思うんですけど、どうやって解決しましたか？

**田中理那**：私は、授業初日は寮生<sup>2</sup>で(帰省していたので)LINE通話で繋いで、どうやってやる?とか、やり取りしてみんな考えて解決しました。

**濱吉**：理子ちゃんと萌愛ちゃんは、寮生のように周りに友達がいなかったと思うんですけど、そういうやり取りは誰としていましたか？

**田中理子**：そうですね…同じ高校から行った人がいて、その人に相談したりしていました。

**千田**：私は実家でオンライン授業を受けたので、パソコンが苦手な両親に聞いて慣れていきました。

**大西**：そっか、まだこっちに来る前だったんだね。

### 対面の授業はやる気が出る!

**濱吉**：1回生って対面の授業ありますか？

**1回生**：あります。

**濱吉**：対面授業が始まって変わったこととかありますか？オンラインの時とは違うこととか…。

**田中理那**：私は、対面が始まってからのほうが、授業に取り組もうっていう意欲が湧いてきました。あとは、寮生以外の人とつながる機会がなかったので、対面授業が始まったことによって寮生以外の、新しい友達を作ることができました。

**田中理子**：私は、授業に対するモチベーションが上がったっていうのと、対面になったことで友人が少し増えました。

**千田**：私も友達がたくさんできたことが、変わったことです。

**大西**：対面になるまでは、話せる相手とか相談できる人はいましたか？

**千田**：いなかったです。

**大西**：そっか、いなかったんだ…。それじゃあ、2か月くらいずっと一人で？

**千田**：はい。

**大西**：ええ、大変だったね…。やっぱり、友達ができてからだと、授業のやりやすさとかモチベーションとか変わりましたか？

**千田**：変わりました。

**大西**：今、対面の授業でグループワークとかありますか？

**田中理那**：はい。国語教育学講読とかは、先輩たちの発表の動画を見たり…あとは…、

**千田**：zoom<sup>3</sup>の授業もあった気がします。

**田中理那**：あっ、そうですね、zoomを使って「授業でこういうことをしていくか」みたいな説明がありました。

**大西**：へ～!zoomを使ってたんだって。私たち、zoomを

1: オンライン学習過程(コース)作成支援のためのパッケージソフト、オンライン教育システム。教員は、コースを作成し講義資料や課題をアップロードします。学生は受講している講義を登録し、資料をみたり課題を提出したりします。新型コロナウイルス流行による講義のオンライン化に伴い、講義の聴講もMoodleで行うようになりました。

2: 高知県立大学には学生寮が2つあります。文化学部の学生は、主に「あふち寮(女子寮)」を利用しています。

3: パソコンやスマートフォンを使ってオンライン上で会議を行うシステムです。講義のオンライン化に伴い、大学ではゼミナールや演習、面談等で利用されるようになりました。

使った授業はなかったよね？

石黒：なかったね～。

田中理那：対面が始まるまえに、zoom上でグループに分かれて意見交換とか自己紹介したりとか事前にしておいて、11月の対面からはスムーズに取り組めるようにしておく、みたいな感じでした。

大西：なるほど。

石黒：すごい！

大西：理子ちゃんは、グループワークとかあった？

田中理子：あんまりなかったです。中国語などの語学では、ペアで読むみたいなのはあるんですけど…。

大西：外国語の授業はグループワークがあったんですね。

## 思い描いたキャンパスライフは・・・

濱吉：入学前と入学後で大学生のイメージの違いについて、お聞きします。

大西：入学前の大学生のイメージってどんな感じでした？

田中理那：私は、結構時間ある、みたいな！暇という意味ではなくて、時間があってバイトとかサークルを授業の合間にやって、充実したイメージでした。あとは、自分の好きな勉強ができる！みたいなイメージでした。自分のしたい、学びたい学問を学べるっていうイメージでした。

大西：そうですね。

田中理子：アルバイトもして、お金いっぱい貯めて、大学でできた友だちとかと旅行に行ったりっていうのを想像していました。

大西：できなくなっちゃったね・・・

千田：私もそんな感じで、友だちができてお弁当を一緒に食べたりだとか、そういうキャンパスライフが送れるのになって思っていました。

大西：かわいい！（笑）学食とかは？楽しみにしてなかった？

田中理那：あっ、確かに！メニューが豊富で、みたいな、イメージでした。

大西：みんな使ったことある？

1回生：はい、ちょっとだけ。

大西：今は、アクリル板とかで、席にすごい隔たりがあって…。3回生は学食を使っていますか？

石黒：使っていないね。

大西：使わないよね。大学での授業はほとんどないもんね。（濱口・濱吉：そうやね～）

## 今のキャンパスライフは？

大西：次に、入学後の大学生活はどうですか。イメージと違った事とかイメージ通りだった事とかあると思いますけども。

田中理那：多分、こういうオンライン授業じゃなかったら…。今は出席確認のために課題とか送らなきゃいけないので…。それがなかったらもうちょっと違ったのかなって思いながら。課題に追われて、最初はパソコンにも慣れなくて、っていうのもあって。本来の大学生って、どうなのか分からないんですけど、入学後は課題が、課題が…、みたいな。

石黒：特にオンラインだと課題が重いつていうか、そういうイメージがありますね。

田中理那：そうですね。

石黒：1回生は授業も多いから大変そうやなって思うね。

大西：他の2人も同じ感じですか？

田中理那・千田：そうですね、同じ感じですよ。

千田：あとは対面になっても指定席で一つ一つの席が離れているから、「なんか話していいのかな」って思います。

田中理子：確かに話しかけづらいですね。

大西：隣の人と話しながら、っていうのが大学っぽいんですけどね。

田中理那：はい。そこで友だちとかできるのかなとか、思っていました。

大西：私たちも、席が近くて友だちになったり、っていうのが多かったですね。

石黒：たしかに…。そういえば、体育の授業はありますか。1回生：あります。

石黒：その体育の時間で、名簿順が近い人たちとグループになって仲良くなるイメージがありますね。ところで、今、体育の授業もあるんですね。

千田：ありましたけど、最後の3、4回くらいが対面でした…。

田中理那：後期から始めて、バドミントンやってるんですけど、1人で…。

3回生：1人で!?

田中理那：あっ、1対1で! すいません（笑）

全員：あははは（笑）

千田：最初のころは、ラジオ体操と一人で30分とかでした…。ずっと…。

大西：えっ、ラジオ体操30分!?

千田：あっ、いや、ラジオ体操は3分ぐらいで、あとは30分以上歩くみたいな。前期の授業は、そんな感じでした。

田中理那：それを先生がMoodleにアップしてくれるシートに記入していく、みたいな形で出席をとってましたね。

濱口：体育もMoodle、なんですね。

田中理那：そうですね。MoodleにExcelの記入資料が配布されてるんですけど、それに自分で記入してMoodleに提出する、という形です。前期の体育は、それですってやっていたよ。

濱口：なるほど、なるほど。



# サークル探しや友達づくりはTwitterの質問箱やzoomのやり取りを活用



## サークル探しはどうしてる？

**濱吉:** 次の質問にいきましょう。サークルやバイトについて、聞かせてください。皆さん、今、サークルには入ってますか？

**田中理子:** 入ってないです。

**千田:** 私は、バドミントンに入っています。

**濱吉:** お～！そのサークルはどうやって知ったんですか？

**千田:** バイト先の先輩がバドミントンのサークルの人で、そこから日時とか教えてもらって行きました。

**濱吉:** 入ったのはいつ頃？

**千田:** 夏休み終わった後くらいですね。

**濱吉:** そうかそうか。

**濱吉:** Moodleとか使って1回生向けにサークル紹介とかってありましたか？

**田中理那:** 橋尾先生が、合気道について教えてくれました(笑)

**大西:** あっ、わたしたちの時も教えてくれたよね(笑)

**3回生:** うんうん(笑)

**田中理那:** それで私は合気道の見学に行きました。

**3回生:** 行ったんだね。

**田中理那:** いろんなものを見てみたくて、寮の友達と一緒に行ってみました。

**大西:** 理子ちゃんはどうですか？

**田中理子:** いや、見たことはなくて。学祭のお手伝いに行った時に、「エスコーターズ<sup>4</sup>」に入ってるっていう方からお話は聞いたんですけど、まだ行けてはいないですね。

**大西:** 学祭って、今年はオンラインイベント<sup>5</sup>でしたよね。

**田中理那:** 私はキャンドルナイトのお手伝いに行きました

**大西:** それを通して、エスコーターズに興味を持ったという感じですか。

**田中理子:** 高校生の頃から知ってはいたんです。興味はあったんですけど、まだ行ってない感じですね。

## アルバイトの探し方

**濱吉:** 次は、アルバイトについて聞かせてください。高知でのアルバイトはいつくらいから始めましたか？

**田中理那:** 最初のバイト先は、寮の先輩の紹介で入って、7月の頭くらいから始めました。

**石黒:** やっぱ先輩なんですね。私も寮生だったので、寮の先輩から紹介してもらったところでバイトしています。そういうのは、寮の良いところですね。

**田中理那:** そうですね。

**石黒:** 1人暮らしの人は、どんな感じですか？どうやってバイト先を見つけました？

**千田:** サークルのソフトバレー部さんが、Twitterで匿名で利用できる質問箱をしているんです。そこにちょっと質問してみたりしました。実家にいるとき、よく見ていましたね。

**3回生:** へえ～。すごい！

**大西:** 今はSNSでそんな情報収集の方法があるんですね。

**千田:** はい。すごい丁寧に答えてくださって、助かりました。

**大西:** 匿名の質問箱なら知り合いがいなくても聞きやすいですね。なるほど。理子ちゃんは何？

**田中理子:** 私は、8月の終わりくらいからアルバイトを始めました。それまでは、コロナが怖いのもあって、アルバイトについて調べはしてたんですけど、やるっていうところまでにはいかななくて。春休みにやっていた短期のアルバイト先から声をかけていただいて始めたって感じですね。

## 友達はどうやって作りましたか？

**濱吉:** どうやって友達を作ったか、きっかけなど教えてもらえますか？

**大西:** この三人は、どうやって出会ったんですか？

**田中理那:** 基礎演習<sup>6</sup>のクラスが一緒だったんです。講義でzoomを使って顔合わせして、対面が始まってから仲良くなりました。

**石黒:** zoomで授業をした、というのが大きなきっかけだったんですね。

**大西:** お互いに顔を知らないと友達は作れないですね。

**1回生:** そうですね。

**石黒:** 今、寮はいくつかに分かれていると思うけど、寮生は初めに1回生同士で会う機会はありましたか？

**田中理那:** 先に寮にいた人たちがLINEグループを作ってくれていて、私が寮に入った日には、みんなでお菓子パーティーをしました(笑)。そこで自己紹介もできたので、仲良くなるきっかけになりました。

**大西:** いいね～。

**石黒:** そういふのががあると友達は作りやすいですね！一人暮らしの人は、どうやって友達作りしましたか？

**千田:** 対面が始まった時に、積極的に声をかけるようにしていました。

**3回生:** すごい！

**大西:** 私が一回生の時は新入生歓迎会があって、今の友達と仲良くなったけど、今年の1回生は新入生歓迎会はなかったですね？

**1回生:** なかったです。

**大西:** 県内出身の人は、どうですか？

**田中理子:** 私は、学籍番号が近いことで、ちょっとずつ話し始めて、LINEも交換して・・・っていうのが仲良くなったきっかけでした。

**大西:** なるほど、学籍番号が近いと話しやすいですね！

アルバイト先とかで、友達は出来たりしましたか？仲良くなった先輩はいましたか？

**田中理那:** 私は寧々さん(大西)と出会えました(笑)

**大西:** そうだね(笑) 私と出会いました。

**全員:** あははは(笑)

4:「笑顔や挨拶を通じて商店街を元気にする」学生団体です。高知商工会議所や市内中心商店街から高知女子大(現高知県立大学)にお声がけいただいて結成されました。現在は、高知県立大学のサークル活動として公認され、20年の歴史があります。

5:2020年11月7日に開催された高知県立大学学園祭「紅葉(くれは)祭」は、オンラインで開催されました。Zoomを使用してサークル紹介や学生交流を行ったほか、夜には防災サークル「イケあい」と学園実行委員会、キャンパス近くにある高知医療センターから見える場所にキャンドルを点灯しました。

6:文化学部1回生が必ず履修する演習。1クラス17人程度で構成され、大学での学び方やレポート作成の方法などを実践的に身につけることができます。



## 最初は寂しかった新生活も・・・

### 新しい環境での生活はどうか？

**濱吉:** それでは最後の質問です。新しい環境での生活はどうですか。特に、県外の人是一人暮らしをするときに大変だったこととか、ありましたか？

**大西:** 一人暮らしはいつから始めましたか？

**千田:** 6月くらいからです。

**大西:** 対面が始まってからですね。まだ友達もできていない状況だったと思いますけど、何か困ったことはありましたか？

**千田:** 寂しかったです。私は、結構、忙しく過ごしていたタイプなので…。自分で高知の美味しいお店やサロンを調べて行ったりしていました。一人でご飯は行けなかったですけど、行ってみたいな～と思って、いろいろ探していました。自分にとって大きかったのはアルバイトでしたね。アルバイト先の人にも恵まれているので、今とても楽しいです。

**石黒:** なるほど。学内よりは学外の繋がりの方が多い感じですか？

**千田:** 対面が始まってからは、学内のつながりも増えてきたので、今は同じくらいです。

**大西:** 他の二人は、どうですか。

**田中理那:** 初めの方は、高知の方言に慣れていなかったの、違和感というか、分らない言葉もありました。あとは、寮生活です。「はじめましての人と同じ部屋で暮らす」という環境が、今まで家族と一緒に暮らしていた環境とは違うので、寮での暮らしでも寂しい気持ちになりました。

**3回生:** うんうん。

**大西:** 不便というよりは、精神的なことが多いですね。

**1回生:** そうですね。



### 土佐弁はどうか？

**大西:** 方言はどうか？

**田中理那:** 寮では出身地が違う人同士が会話すると、もう方言がめちゃくちゃになっちゃって(笑) 少し大変でした(笑)

**大西:** 理子ちゃんは自分の方言(土佐弁)を強く感じますか？

**田中理子:** 私はそんなに強くないと感じているんですけど…、「○○がや～」とか(笑) ぐらいだと思いますけども。

**田中理那:** 理子ちゃんはわりと優しい方言です(笑)

**大西:** そうなんですね(笑) 3回生にも、今、高知県出身の人が二人いるんですよ。高知の方言で何か言われたことがありますか？

**濱吉:** 語尾を真似されることが多いですねえ。

**濱口:** 「が」とか「ちゅう」とか(笑) 県外の人で土佐弁に染まる人もいますね。

**大西:** 1回生は染まりそうですか？

**田中理那:** 高知の人と話していると、ふいに土佐弁になっちゃいそうな時がありますね(笑)

## 最後に・・・

**石黒:** 最後に、1回生に感想を言ってもらえたらなって思うんですけど、いいですか？

**田中理那:** はい。私は、こうやって先輩方と話す機会もなかなかなかったですし、こういう話をみんなで意見交換できる場所ってというのがなかったので、すごく楽しかったです！

**田中理子:** 私は、同じ1回生で県外の人や寮生と、いろんな情報…というか楽しかったことや大変だったことを共有出来て、安心しましたし、楽しかったです！ありがとうございました！

**千田:** コロナで制約があったからこそ、いま遊ぶときにこんなに楽しくていいのかと思うこととか、いままで気づか

かったことを思い返す機会を与えてもらったなと思いました。ありがとうございました！

**石黒:** 今回の学生対談の目的は、コロナが大学生活に与える影響を明らかにするといったものもあったのですが、実は新入生同士の情報交換や交流の場にもなればいいなと思っていました。1回生のみなさんに「交流の場になった」と言ってもらえて本当に嬉しいです！今日は急遽zoomで対談という形になってしまっただけで至らない点もあつたとは思いますが、本日はありがとうございました！

**全員:** ありがとうございました！

### ○石黒天芽

SNSなどでコロナ禍に入学した新入生の悩みなどを見ることはありましたが、実際に1回生の意見を聞く機会がなかったので、今回、実際に学生対談として話し合いができてとてもいい機会になりました。これから先どうなるのかわかりませんが、来年入学する予定の方にも、このコロナ禍での大学の授業形態や生活面を考える上で、すこしでも参考にしてもらえたら嬉しいなと思いました。

### ○大西寧々

1回生と話す機会がなかなか無いので、私たち3回生にとっても、1回生にとっても良い機会になったのではないかと思います。私たちが1回生のときよりも大変な状況でとても苦労しているようだったので、この対談を通して少しでも不安や心配を取り除くことができればいいなと思います。また、この企画も対面の予定から急遽オンラインに変わり、とても大変でした…。1日でも早く、また対面でみんなと話せるようになることを願っています。こんな状況の中、集まってくれた1回生に感謝です！

### ○濱口美咲

自分たちの学年は経験していないような講義形式や、友人関係の不安など新型コロナウィルスによって1回生が受けた影響を聞いてとても大変な状況であったこと、また現在もそうであることを再認識することができました。早く以前のような日々の過ごし方ができるようになってほしいです！

### ○濱吉陽菜

この機会に1回生と対談をすることができ、新型コロナウイルスによって学校生活での不便だけでなく、日常時生活においてもその影響を受けていることを改めて認識できました。この状況が早く終息し、キャンパス内が学生の笑顔で溢れる雰囲気に戻ることを願います。

編集後記

# 特集 コロナ禍の大学

## 教えて!就活のあれこれ!

### 就活経験談

#### Q.就活の準備はいつぐらいから始めていたか

インターンは3回生の夏から行き始め、対面で1～2日のインターンをいくつか受けました。本格的に就活を始めたのは、3回生の1月からです。どこを受けるにも必要なSPIやエントリーシートの練習は、2月ぐらいから始めていました。

#### Q.面接対策について

ワクワクWork!(以下、ワクワク)に定期的に来ている金融関係に強い方に練習をしてもらいました。質問の傾向が分かりましたし、自分で調べが足りないところもわかりました。他に、就職活動の報告書も見ました。それを参考にして、絶対に聞かれていることを確認し、その質問に自分ならどう答えるかを考えました。

#### Q.オンライン面接の難しかったところ

オンライン面接は初めてのことだったので、緊張しました。所作などの動きがないので、雰囲気伝わらないのが、難しいところです。そこがいちどころでもあるし、悪いところでもあると思います。

相手以外にまわりが見えないので、面接だけに集中しやすかったのですが、電波が悪くて声が途切れたり、質問内容が聞き取りづらかったりしたのが、困りました。聞こえなくても、聞き返すづらいもあります。また、隣の人として紹介されているが顔が見えなかったりして、そういう部分もやりづらいと感じた点です。

オンライン面接の際は、大学の教室が借りられるので、電波の不安などがあつたら大学を利用するのもいいと思います。

#### Q.早くからしておいたほうが良いこと

自分の長所・短所を把握して自己PRを考えておくのは、絶対必要なことです。自分が何を軸にして働きたいのかを決めておくことが大事です。例えば自分の軸は、「高知で働きたい」と「地域の人の関わりが多い仕事」です。その意味で、自己分析は早くからしておいたほうがいいと思いますし、だいたいいいので、どこを受けるかを決めておいたほうがいいと思

文化学部ってどんな進路があるの?文系だから就職には弱い?幅広い分野を学ぶ文化学部は進路も多種多様。文化学部を今年卒業される先輩方に就職活動や採用試験、コロナ禍の就職活動についてインタビュー、さらに県立大学の就職支援コーナー“ワクワクWork!”の職員さんにも就活について質問してみました!

#### 内定先▶金融

坂本 菜々子さん  
(政治学・政策分析研究室)



います。とにかく、なんでも早めからやっておくことが大切です。

#### Q.就職活動で、よく聞かれたこと

「なぜ高知がよいのか」や「大学どんな勉強をしているのか」といったことに加えて、趣味、友達関係、学生生活で何か活動をしたのか、など幅広く私自身について聞かれました。もちろん、「入社して何がしたいか」も聞かれました。面接は、自己紹介でもありますから、普段の自分を知ってもらえる場です。エントリーシートをもとに聞かれますが、書き忘れてないことや不十分な部分を聞かれます。なので、聞かれそうだなと思うところを予想しておくことが大事です。自分が書いたことに理由を持っておく、つまり根拠を話せるようにしておくようにしたほうが良いです。

#### Q.面接で気を付けたこと

無愛想にならないことです。笑顔でいるようにしていました。下を向いたりすると自信がなさそうに見えますし、はきはき返事がすることが大事だと思います。受け答えに詰まっても、「すみません」とはっきり言うようにしていました。オンライン面接では雰囲気が伝わらないので、大げさにリアクションをするように心がけました。

#### Q.ワクワク以外に頼った人はいますか

ゼミの先生に相談に乗ってもらいました。すごく厳しいことを言われるけれど、自分のためになることばかりでした。先生は、今までいろんな4回生も見ているので、参考になる意見が多かったです。



#### 内定先▶公務員

中島 穂さん  
(哲学・倫理学研究室)

#### Q.公務員の勉強は、どのように進めていましたか?

3回生の春から、大学生協が主催している公務員講座を受講していました。でも、夏頃になって民間企業に興味を持ち始めて、それからは勉強をやめていました。就職活動を進める中で、選択肢を広げるためにやっぱり公務員も受けてみようと思うようになり、その時点で5月でした。もう間に合わない!と思って、とにかく模試をたくさん何度も解きました。数的処理など出題割合が大きい問題は必ず解けるようにしておきました。でも、私は運がよかったかもしれない。勉強はちゃんとしておいた方がいいと思います。

#### Q.面接で気を付けていたことはどんなことでしょうか?

気を付けたことは、端的に話すことです。面接官は、丸暗記している人や、理由を長く話している人には、興味を持たないようでした。民間企業の面接でも会話のキャッチボールを意識して臨んでいくとうまくいったので、公務員試験でもそれを意識しました。

面接では、「気になるニュースは何か」を必ずといっていいほど聞かれました。私は、業界に合わせて準備しました。それから、「なぜ高知の大学へ進学したか」も、よく聞かれました。私は地元(高知県外)で就職活動をしたので、聞かれたのだと思います。

#### Q.コロナ禍での就職活動でしたが、通常の面接とオンライン面接で違いはありましたか?

対面での面接は、相手の表情や雰囲気が分かるので、相手の様子を見て、話す長さを変えるなど対応しやすかったです。オンライン面接は、カメラを見てると相手の顔があまり見られなくなり、雰囲気を掴むのが難しかったです。オンライン面接では緊張感や必死さが伝わりづらいので、こちらが緊張で話せないでいると切り捨てられやすい気がしました。

#### Q.小論文対策はどのようにしましたか?

外部模試や生協のもので何回か添削してもらいました。実際の試験で出題されたテーマは、やはり「新型コロナウイルス感染症」に関するものが多かったですね。

#### Q.民間企業からも内定をもらったそうですが、最終的に公務員に決めた決め手は何ですか?

私は、女性の幹部率や出産してからの働きやすさを重視して結論を出しました。働く環境は大事だと思います。

みなさんも頑張ってください!



### Q.コロナ禍での就活となりましたが、スケジュールに変化はありましたか？

実際に動けたのが、とても遅かったですね。僕は、緊急事態宣言(4月)に入る前に帰省して、地元で就職活動をしたので、わりとスムーズにできました。医療関係は、学生との接触があるとダメだからということで、特に遅かったみたいです。

### Q.就活で感じたことを教えてください。

3回生の2月・3月に予定されていた就活対策講座が軒並み中止になりました。だから全部自力でやるしかなく、初歩的なことから全部自分で調べてやっていきました。でも、それはみんな同じ環境なので、その人の素の力が試された気がしました。例年は、就活対策のための講座をたくさん受けて武装して面接会場に行く人と、それができない人との差があったけれど、今年は、それがなかったと思います。だから、普段からのコミュニケーション能力や、自分でなんとかする態度が試されたと思うし、そこで差が出たように思いました。

### Q.自己PRで工夫したことはありますか？

自己PRは、普段の自分の行動、生活の中で、少し強みになることが、差がつくところだと思います。僕の場合は、居酒屋とかで出会った年上の方たちと喋るのが好きなんですけど(笑)、それを「コミュニケーション能力高いね」って言われたりしました。それから、僕にとっては「高知」というのはパワーワードでした。地元が長野だから珍しくて、「なんで高知?」となって、そこから話が展開しました。高知のことを聞かれると話しやすく、身構えなくて気楽になります。高知出身じゃなくて高知の大学に行った人は、絶対食いつかれると思いますよ。

### Q.就職先の選択肢はたくさんあると思いますが、決め手は何でしたか？

新型コロナで大変になる前から、簡単に10年20年で消えたりしない仕事、ということで考えていました。例えば、AIが出てきたときその業界自体の需要がなくなるような仕事、ですね。実際に受けた業種は、自動車販売、不動産賃貸、リサイクル会社など、バラバラでしたけど、基本的な考え方は「簡単にはなくなる仕事」です。地元の地域性や景気変動、環境問題からみて、未来があるなと感じた会社を受けました。

就職先は薬品会社に決めましたが、なくなる仕事、ということに加えて、市場シェアや賃金も一応調べて決めました。でもそれよりも、勤続年数や女性の採用率、育休の取得率、社長さんや役員さんの平均年齢が気に

## 内定先 ▶ 商社

### 柴 成哉さん

(英文学・英文化研究室)



なります。新しい考えがあるような会社のカラーに魅力を感じますね。就活はいろいろありましたが、就職先を一つに決める時よりは、受ける会社を決めるまでの方がいろいろ考えたりしましたね。

### Q.就職先を決める際に、口コミなどは気にしましたか？

気にしてないですね。掲示板とかに書き込む人は、アンチだと思っただすよね。好印象なら書かないわけだから。大事なことは、企業の情報を簡単に鵜呑みにせず考えることと、実際に人と会ったり、面接、インターン、説明会に行って、自分の目で見てから、自分の直観を頼りに考えたらいいと思います。自分が良いと思って他人から見たら「?」ってこともあるから、自分の感覚にその会社が合えばそれでいい、ということだと思います。

### Q.最後に伝えたいこと

コミュニケーション能力が一番大事だと思います。何をやるにしても、きっかけは自分だけで、人巻き込まなきゃいけないから。でも、コミュニケーション能力って、話せるだけじゃなくて聞くことも含めてだと思います。会話のキャッチボールみたいなもので、発信力と傾聴力が必要だと思います。その点では、僕は居酒屋のバイト経験が役に立ちました。そこでのお客さんは酔っているけれど自分は素面、話が通じないなかで相手が求めることを心地よく返すっていうか、それ以上の厳しいシチュエーションは、なかなか無いと思います。就職面接は、誰も酔ってないから。そういう意味では、コミュニケーション能力を鍛える場合は、バイトだと思いますね(笑)。

それからコロナ禍の就職の経験談なら、僕らの学年の声が参考になると思いますね。ワクワクWork!や親に相談するのも大事だけど、対策の経験談を聴くなら、コロナ禍の中で就活した第1号の僕らでしょうね(笑)

## 内定先 ▶ 国語教員

### 宮本 直幸さん

(教育心理学研究室)



### Q.いつから教職を目指していましたか？

1回生の頃は、就職のことは特に考えてなくて、教職は取っているから間違いなく選択する

だろうなっていうイメージでした。3回生になってからは、他の就職活動は全然しなかったという感じです。

### Q.学習支援のような教職に関連する活動はしましたか？

学習支援のボランティアは、ほぼ皆勤賞ぐらいに全部行っていたかもしれませんね。高知県は津野町と安芸市で夏と春、三原村では夏に活動があり、1回生の後期から3回生の前期まで、各地域には絶対行くようにしていました。3週間続けて3つの地域に行ったりしていたので、積極的に参加していたほうが、と思います。

### Q.その活動は、教職採用試験に生かされましたか？

そうですね。やっぱりいろんな環境に自分で飛び込んで、先生方や現場の人と話したっていう経験が、採用面接で堂々と話せることにも繋がりましたし、こうした活動についての質問もありましたから。「こういう活動をしてきたので…」と言えたりもしますし。

でも、なによりも学習支援活動をやっていく中で、自分自身の勉強面につながる意欲のようなものが出てきたっていうのが大きかったと思います。参加するごとに、「学校の先生にやっぱりなりたいな」って思いましたから。

### Q.コロナ禍で、試験内容、日時の変更、採用人数の変動などはありましたか？

試験や面接の日程変更はありましたね。本来であれば午前中のものが午後になったり。

試験科目と募集人数は、特に変わらなかつたです。

### Q後輩へのアドバイスをお願いします。

誰でもそうだと思いますけど、就活で「苦手だな」と思う部分は、なんとなく頭に浮かんでいると思うんです。例えば、面接で話すの緊張するな〜とか、特別アピールするところがないなあ、一人で勉強できるかなとか。基本的に人って自分のことを甘く見てしまう部分があると思いますけど、それでも弱点だと思えるような部分は、早いうちに克服しておいたほうがいいと思いますね。「本格的に就活が始まった自分変わるやる」みたいな幻想をどこかに持って後回しにしがちですけど、ほったらかしといえ一年後に急に変わることもないから。今、表にでてくる弱点って思うところから潰していくというか。調子が出てきた時に「でも、こんな弱点あるし…」って、克服してない弱点が心にひっつくよりいいと思いますね。3回生の時期には、まず自分のぽって浮かぶ一番の弱点を克服するようにしておいた方がいいと思います。時間もありますから。

教職の場合、採用試験の準備は3回生の年明けから始める人が多い感じですね。記憶系の教職教養科目は、全員ができる箇所はできてないはず合格できませんよね。だから、記憶系から勉強を始めないといけませんけど、「この時間はいつも勉強する」みたいな勉強する習慣を作っておけば、勉強に対するストレスが減ると思います。





## ワクワクWork!! (就職支援) 百々美紀さん、伊勢幸広さん

### Q.従来の就活と今年の就活との違いを教えてください

コロナ禍で急に変わって、4回生はオンライン面接の対策もあまりできなかったと思います。グループディスカッションの代わりに個人面接とか、選考試験の方法も変わったんじゃないかと思います。コロナ禍で学生さんに直接会う機会がなくなったので、インターンシップに参加してくれた、知っている学生さんの中から採用する企業もありました。

全体的に企業主体でスケジュールが動いていました。企業側がオンライン対応できるようになった5・6月に、一気にオンライン面接が増え、一次・二次面接を飛ばしていきなり役員面接だった企業もありました。学生のみなさんからしてみれば、段階を経た採用試験ではないため準備も十分ではないし、負担がかかるスケジュールだったと思います。

なかには選考が途中でストップになって、次いつ始まるかわからないという不安な状態におかれた学生さんもありました。一ヶ月も採用試験が途中でストップした例もあります。みなさんは不安になりますよね。

でも、高知県内の会社のなかには、大学の対面授業開始と合わせて面接を設定してくれるような配慮もありました。対面で意思確認をしてミスマッチをなくすようにしていただける、こういったご配慮はありがたいことでした。

今回の就職活動は、観光分野に就職を考えていた方は、特に大変な就職活動だったと思いますし、留学を断念して就活に方向転換した学生さんもおられました。コロナ禍の影響で、他の人よりも遅い時期から就職活動をスタートして苦労した人もいました。本当に大変だったと思います。

ただ、デメリットだけではなくてメリットもありました。オンラインでの実施は、交通費がかかりません。高知県外で就職をしたい学生さんは、バスや飛行機での移動にかかる経費がおさえられたのではないかと思います。また、始まりが遅かったので、秋季採用枠を設ける企業が結構ありました。ですから、情報をキャッチするアンテナを広げておくことは大事ですね。

### Q.オンライン就活のコツはありますか

パソコン・携帯で、実際に自分がどういう風に映っているかを見てもらった方がいいと思います。目線や光の当て方など、友達同士で試すだけでも違うと思います。

学生だけでなく、企業の側も今回のような就活は初めてですし、オンラインの形に移りながら何がいいのかを模索している段階です。3回生には、本番に向けて、どんどんチャレンジしてほしいと思います。

### Q.ワクワクwork!!は、どのように利用したらよいですか?

コーナーには、新聞や雑誌、四季報や業界地図、問題集などがあります。資料の貸し出しはもちろん、なかには持ち帰り自由のものもあります。就職活動が本格的になる前から、ふらっと寄ってもらって雰囲気慣れてもらうことをお勧めします。

3回生になると進路希望調書を出してもらって面談します。そのときに、その学生さんが不安に思っていたり、考えていることを聞いて、それに合わせた情報提供をしたりしています。小規模な学部だからこそその学生さんとの距離の近さも、本学の良さかもしれませんね。職員は、学生の顔を覚えていきますから(完璧ではないですけど)。面倒見が良いというのは結果論ですけども、学生のことを知っているとか顔見知りになれる関係という環境が良いのかなと思います。ワクワクwork!!っていう名前は、学生さんから募集してつけられた名前なんですよ!

それから、ワクワクで紹介しているガイダンスには、ぜひ参加していただきたいです。基本は他人に自分をどう見せるか、ということで、そういう訓練ができます。模擬面接やZoomを使った面接などもできますし、そこで発生するトラブル対応へのアドバイスもできます。

いろいろ活用してもらったらいいと思いますが、オリエンテーションやメールでもガイダンスなどのお知らせをしているのに、活用されていないものが結構多くあります。実際に、「もっと早く受けたら良かった」という声を聞きます。ハローワークのジョブサポーターさんがきてくださっているので、相談・模擬面接・添削など、積極的に利用してほしいと思います。

それから、私たちからのお願いです。どんな情報提供の仕方をすれば、みなさんが受け取りやすくなるかを教えてもらいたいです。オーダーがあれば、ぜひ。

### Q.最後に

これができていたら大丈夫っていう基準は就職活動にはありません。自分のことをどれだけ知って、自分に合う企業と出会えるかどうか、が大事ですね。みんなも同じ環境なので、焦らずにスケジュールを把握して、自分がやるべきことを考えて準備することが大事だと思います。

就活での失敗は、誰にでもあります。でも、次にどう生かしたらいいか、ワクワクwork!!では、失敗をどう自分のために活かすか、一緒に考えたいと思います。今は、就職して一つの企業で勤め上げる、という時代ではないのかもしれませんが、自分自身のことをしっかりと考える時間を作ることが大事です。まずは納得した状態で就職できるか、そして就職活動を通じてどれだけみなさんが成長するのかが、その後のキャリアアップや転職にも影響していくと思います。

## 就活体験記の取材を通じて

コロナ禍で大きく変わってしまった就職活動について、当事者である先輩方に様々なお話を聞くことができました。自分たちの不安に思っていることや、どうしたらいいかわからないことなどを先輩方に相談する機会はあまりなかったのが、参考になるお話を聞くことができてよかったです。また、ワクワクWork!!の方にも、利用方法やオンライン就活のコツなどのアドバイスをいただき、これからの就活に活かしたいと思いました。

特集

# コロナ禍の大学 オンライン 講義批評会



## 自己紹介

### ●別役

高知県出身の4年生。2019年後期から韓国へ留学するも新型コロナウイルスの影響で中断。韓国の大学のオンライン講義も経験した。周りとは相談がしづらいオンライン講義は苦手。

### ●齋藤

埼玉県出身の4年生。中国語の授業を受けたことをきっかけに一年間北京へ留学した。通学時間の無いオンライン講義には肯定派。

2020年新型コロナウイルスの影響により大学教育も変化を求められました。教室内での感染を防ぐ観点から、オンラインでの講義が取り入れられ、学生だけでなく教授も試行錯誤を繰り返した1年となりました。報道ではマイナスに取り上げられることの多いオンライン講義ですが、実際のところはどうなのでしょう。現在4年生の私たち2人が、学生目線で3つのオンライン講義について批評し、報道では見られない「オンライン授業のホンネ」をお伝えします。

## 観光企画論 オンライン講義での時間構成

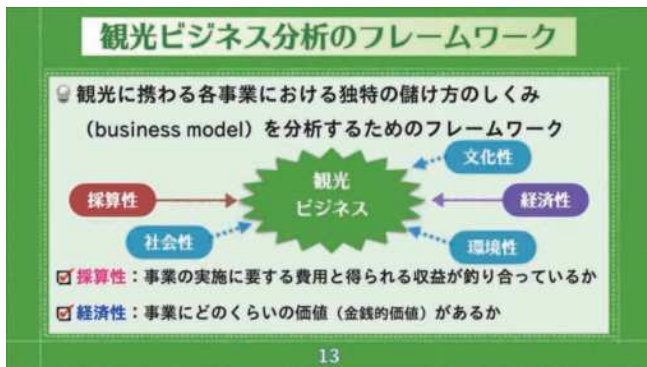


写真:観光企画論第三回YouTube動画一部抜粋 字幕も完備されている。速度調整も可能。

### ◆概要

経済学・経営学・商学・会計学的な視点を基礎に  
観光ビジネスについて学ぶ

#### ○遠隔授業の方法

- 1.各回のYouTube動画を視聴
- 2.小テストに回答
- 3.感想を提出窓口に提出

※遠隔授業は10月中(夏休み明け)と1月前半(正月明け)のみ

### ◆批評

別:オンライン講義用の動画がすごく見やすいよね。

齋:アニメーションなども凝っていてまるで放送大学みたいなクオリティで驚いたな。

別:講義動画も1回40分程度と何度も見返しやすいよね。

齋:でも、通常の講義では90分の講義だね。どうして対面講義よりも短い時間で講義が受けられるのかな?

別:たしかに気になる!対面講義とオンライン講義の時間構成にどんな違いがあるんだろう??

齋:梶原先生に聞いてみよう。

梶原先生コメント

授業では、いかに基本的な内容を精選するかを心がけています。過度の情報量や負担があると学生さんも混乱するでしょう。真に伝えたい内容だけ抽出すると、講義内容や論点は30分で整理整頓できます。

大学の授業は百科事典的な知識を詰め込むものではありません。その回のテーマの取っ掛かりとなる知識を解説して、あとは学生さんが問題意識をもって自分で調べればよいのです。対面の授業でも、1コマの中で、先生の話をもぼんやり聞きながら、自分のアタマの中で自分なりに考えている“アイドルタイム”があるはず。対面授業のときは、学生が考える時間を確保するために、説明を別の角度から繰り返したり、余談や雑談をしている、とも言えます。

YouTubeは「真に伝えたいこと30分」に特化した教材だと思ってください。この場合、繰り返し確認と思考時間の確保は、再生ボタン・停止ボタンを押して各自がマイペースでひねり出す、という仕組みになります。

なお、学生さんとのインタープレイは、ムードルのフィードバック機能をフル活用して行いました。誰がどれくらい動画を見たかも把握していますよ(笑)



ちょっと小話

## 「Moodleとは?」

Moodle(ムードル)とは教育者が質の高いオンライン学習過程(コース)を作ることを助けるパッケージソフト、オンライン教育システムです。

高知県立大学文化学部の学生は自分専用のアカウントを所有しています。自分が受講している講義を登録し、新型コロナウイルス以前は主に課題の提出や講義資料の確認などで利用していました。新型コロナウイルス流行後はオンライン講義化に伴い講義の聴講もMoodleで行うようになりました。



# 中国語基礎Ⅱ

## 「文化」を学ぶ講義としての価値

### 第11回 1月7日 第7課①

みなさん、あけましておめでとうございます。今年も頑張って中国語を勉強していきましょう。ちなみに、「～おめでとう」という中国語の言い方、覚えていますか？そう、「快乐」を使います。なので、「あけましておめでとう」は「新年快乐」ですね。ちなみに、今年が丑年なので、「Happy New Year!」と中国人の後輩からメッセージがありました。「牛」の発音は、「niu2」、「new」と発音が近いので、それを使った言葉遊びですね。面白いです。中国では、旧正月である春節がメインのお正月です。今年は2月12日ですね。あまりお正月らしくなかった今年の日本、中国語を勉強しているみなさんは、今年は春節もお祝いで2回お正月を楽しんではいかがでしょう（笑）

さて、今日から第7課に入っていきます。昨年の最後の授業でも少し解説しましたが、ここから初級中国語のメインイベント「補語」の学習が始まります。今日の動画では、補語は扱いませんが、それ以外にも徐々に難しくなっていきますので、しっかり勉強していきましょう。わからないことがあれば、また遠慮無く質問してください。では、今日の学習に入っていきます。

写真：各回のスペースに書かれた挨拶文。中国の文化や雑学を知ることができる。

### ◆概要

**中国語の発音を正確にできるようにし、さらに入門レベルの中国語をマスターすることを目指す。**

#### ○遠隔授業の方法

1. 講義動画(前後編)を視聴
2. 課題(中国語で作文)に取り組む
3. 提出窓口に課題を提出

※遠隔授業は10月中(夏休み明け)と1月後半(正月明け)のみ

### ◆批評

齋：大学の語学の授業がオンラインで出来るのか、これは気になるところだね。

別：そうだね、やっぱり語学の授業はすぐに質問できたほうがいいな。そう考えると発音が正しいかどうか、確かめられないのが動画授業のネックになっているね。

齋：中国や台湾の留学生の「生の中国語」が聴けないところも少し残念だったね。そういえば、私が以前にこの授業を受けたときは、先生が話す「中国の文化の話」がすごく印象に残ったんだ。その点は、オンライン授業でも変わらずに学べると感じたよ。

別：moodleの各回に書かれた挨拶文も中国に興味を持てる内容だったね。語学の授業をオンラインで行う際に何を意識していたのか、先生に聞いてみようか。

#### 高西先生コメント

とにかく意識したのは、興味をもって勉強を続けていってもらうにはどうしたらよいか、ということでした。興味がないと、語学は上達しませんから。その意味で、**語学の授業では雑談も大切**なんです。オンデマンド型の遠隔授業でも、そうした雑談的な内容をどのように盛り込むかは意識しました。Moodleの挨拶文も、その試みの一つです。

また、ネイティブの「生の中国語」にどのように触れてもらうのかも課題でした。例年この授業には留学生が参加してくれていたのですが、教室でリアルに学べていたのですが、オンデマンドではそれが難しい。幸い教科書には、ネイティブによる動画コンテンツがオンライン上に用意されていたので、それを活用しました。ただこれだと一方的に画面越しに受容するにすぎず、**言葉が「リアル」にならない**んですね。留学生のいる教室空間との違いを改めて感じました。「発音」に関しては、さらにやっかいです。今後の課題ですね。

# 文化と裁判

## オンライン講義に動画は必要?



中華街で購入したというお札と共に、田中先生はこの日もおしゃべりした。

### ◆概要

**憲法で保障された裁判を受ける権利とその実践例である刑事手続を学ぶ。**

#### ○遠隔授業の方法

1. レジュメを参考に各回の音声ファイルを聞く。
2. 講義に対する質問、感想を提出窓口に提出する。

※遠隔授業は10月中(夏休み明け)と1月前半(正月明け)のみ

### ◆批評

齋：実は田中先生の授業は、先生のファッションを楽しみにしている面もあったんだけど、オンラインでは見られないのが少し残念でした。

別：この授業は他の2つと違って、音声ファイルを聴くスタイルをとっているのが特徴的だったね。

齋：うん、授業動画がないと理解が難しいかと思っていたけど、音声のみのほうがむしろ授業に集中できるように感じたよ。

別：必ずしも授業動画が必要なわけではないことが、この授業を受けて分かったね。

齋：そういえば、田中先生は「パソコンが苦手」だと話していたよ。オンライン授業を行うことになって、どう思ったのか聞いてみようか。

#### 田中先生コメント

大学からオンライン講義を行うと通知があったとき、まず第一に「それは何？」と頭に浮かびました。どうしよう、と。

文化と裁判では、大学の方針に基づき、10月中と1月の最初の二週間は音声ファイルを用いた授業となっています。私には、自分で授業動画を撮影するということがうまくできるとは思いませんでしたので、録音を載せる以外の選択の余地がなかったというのが正直なところですね。

学生の感想を見ても、オンライン講義は難しいと感じます。私から学生の皆さんにこのやり方は正しいのか、聞きたいですね。

### 編集後記

**別役** 韓国でもオンライン講義を受けましたがIT国家である韓国では教授の対応は早く、学生のオンライン講義の視聴確認もしっかりと管理されていました。私は気になったことをすぐに周りに質問がしづらい環境が苦手であったため行き詰ってしまい、講義を視聴するのが苦痛になっていました。授業料に見合う講義の提供ができていないのか？大学側に聞きたいです。

**齋藤** 大学に通う意味って何でしょう？コロナ禍でその意味はより強く問われることとなりました。ただ知識を得たいということであれば、本を読めば大半このことは解決してしまいます。「それなら、大学に通う意味なんて無いんじゃないの？」そんな懐疑的な声も聞こえてきそうですね。しかし、大学に通う意味はただ教科書的な知識を得ることではなく、生きている知識を学ぶことだと今回記事を作成して気づきました。先生の実生活に基づいた例え話、そんなものは本にはなかなか載っていませんよね。オンライン講義に代わっても、こうした「大学の存在意義」を感じさせる授業をお願いしたいです。



# コロナ禍の大学

# 新型コロナウイルス

# 文化学部の研究者

文化学部の研究者の視点からは、コロナ禍をどのようにとらえることができるのでしょうか。今回は、よく世の中で議論される経済や観光の視点とは異なる3つの専門分野の研究者に議論していただきました。

研究者は、憲法学を専門分野とする岩倉先生、日本文学を専門分野とする田中先生、国際日本学を専門分野とするヨース先生の3人の先生を選びました。私たち学生からの質問は、「先生の研究分野からは、コロナ禍の現状をどのように捉えることができるのでしょうか。」です。

みなさんも、多様な視点から新型コロナウイルス感染症に対して考えてみてください。

## 田中裕也先生(日本文学・近代)

### 新型コロナウイルスに“文学”は効きません



新型コロナウイルスに“文学”は効きません。

そう書いたら一行で終わってしまいそうだが、事実は事実である。「新型コロナウイルス×研究」というテーマを与えられたが、新型コロナウイルスの感染症の拡大というこの圧倒的で空前絶後の“現実”に対して、文学研究は「無力」としか言いようがない。私も世間の状況に対して、新聞・テレビ・ネットの報道や簡易な知見が書かれたもの、同僚や友人との会話等々を通じて

しか情報を知る術もなく、学生のみなさんと何ら変わらなと思っています。

「無力」である。やはりここで筆を擱いた方が賢明なのかも知れない。

しかし今回の感染症を取り巻く“事態”に対しては、日本近代文学の研究をする者として思うところがないわけではない。それは日本・近代・文学の作家たちは類似する歴史的事件に遭遇した際に、さまざまな言葉を残しているからである。彼らはその「無力」さゆえに、“事態”を冷静な目で見つめていたことも“事実”であろう。

ここではスペイン風邪と関東大震災に遭遇した作家たちの言葉を追いかけていくことにしよう。

新型コロナウイルス禍で脚光を浴びたのは与謝野晶子であろう。「感冒の床から」(1918年)で晶子はスペイン風邪の流行に対して、「政府はなぜいち早くこの危険を防止する為に、大呉服店、学校、興行物、大工場、大展示会等、多くの人間の密集する場所の一時的休業を命じなかったのでしょうか」と政府の感染予防対策が後手に回ったことを批判した。この晶子の言葉が現在のわれわれの状況に類似していたために、マス・メディアが取り上げたことは記憶に新しい。しかし私が注目したいのは同記事内の、次の言葉である。

同じ時に団体生活を共にしている人間でありながら、貧民であるという物質的理由だけで、最も有効な第一位の解熱剤を服することができず他の人よりも余計に苦しみ、余計に危険を感じるという事は、今日の新しい倫理意識に考えて確かに不合理であると思います。

晶子は貧困層の薬が手に入らない状況に対して、「倫理的」に考えて「不合理」だと投げかけている。晶子は“命”をめぐる問題のなかで社会的弱者が不利益をこうむることへの批判を書いているが、この問題も現在に繋がる。非常時ゆえに見過ごされているものが多すぎる現状を私たちはよくよく考えねばならない。

病とは少し異なるが、次に関東大震災時にも注目したい文章がある。志賀直哉は関東大震災時京都に難を免れたが、父と麻布の家のことが気に入り電車で東京へ向かった。もちろん東海道線も被災しており、名古屋

で軽井沢からの迂回ルートを使用した。それでも電車はたびたび線路上で立ち往生した。その際に電車内から車外で起こっていた事件を「震災見舞」(1925年)で写し取っている。志賀は関東大震災のデマのせいで朝鮮人虐殺が起こっていることを人づてに聞いていたようで、志賀は「東京では朝鮮人が暴れ廻っているというような噂を聞く。が自分は信じなかった」と述べながらも、群馬の松井田で次のような事件に遭遇する。

警官二三人に弥次馬十人余りで一人の朝鮮人を追いかけるのを見た。  
「殺した」直ぐ引返して来た一人が車窓の下でこんなにつたが、余りに簡単すぎた。  
今もそれは半信半疑だ。

志賀が実際に朝鮮人を迫害している光景を目の当たりにし、当惑している状況がうかがえる。おそらくこの朝鮮人は殺された可能性が高いのだろうが、志賀は敢えて「半信半疑」の領域に持ち込もうとする。できごとをぼかした表現で、晶子と較べると弱腰に映るかも知れない。だがそこに志賀の意図があるようだ。続きの文章から考えてみたい。

志賀はようやくのことで東京駅近くの大手町までやってきた。そこで二人の若者が会話をしているところに遭遇する。

「——鮮人が襲へ廻ったんで、直ぐ日本刀を持って追いかけると、それが鮮人でねえんだ」刺子の若者は自分に気を兼ね一寸此方を見、言葉を切ったが、直ぐ続けた。「然しかう云う時でもなけりやあ、人間は殺せねえと思ったから、到頭やっちゃったよ。」  
二人は笑っている。ひどい奴だとは思ったが、平時そう思うよりは自分も気楽な気持でいた。

志賀ではないが、本当に非道い事件だと思う。志賀は非常時の“人間”の本性にも似た残酷さを写し取った。しかし同時に志賀は「平時そう思うよりは自分も気楽な気持でいた」という。志賀も残酷な“人間”だということだろうか。おそらくそうではない。

志賀は関東大震災後の世界という非常時に際して、そうして車窓というあたかもテレビ画面のように切り取られた“現実”に、当事者意識の希薄さを感じていることを素直に書いていると見た方がよいだろう。ここにこのエッセイの読者と同一の視点に立とうとする志賀の姿勢がうかがわれる。日々ニュースで垂れ流される残酷な“現実”に馴れ倫理観が鈍麻していく人々に対して、“事態”を把握させるだけでなく、倫理観に嘔きかけて目覚めさせようとする文章だといえる。志賀さん凄い。

もう一度言おう。文学は“現実”に対して「無力」である。そうであるがゆえに文学は“人間”の弱さに寄り添い、弱さを見つめようとする。新型コロナウイルス自体の収束も大事だが、コロナで黙殺されてしまう弱い立場の人々の方が私には大事である。私は太宰治が師の井伏鱒二に戦後送った書簡の言葉を思い出す。

「私は単純な町奴です。弱いほうに味方するんです」

\*ちなみにこのタイトルは、或るエッセイのパロディであり、オマージュである。



## ヨース・ジョエル先生(国際日本学)

### 国際日本学からコロナ禍をとらえる



「過去は異国なり」という言葉があります。自国の過去であっても、安易に古い時代の社会と文化を現代の基準で判断すると様々なことを見逃がしてしまう、という警告を込めた語句です。本来の意味と少し違いますが、多くの現代人は100年前、150年前の出来事をまるで異国のような、遠く自分らと関係のないものとしているような気がします。「異国」に関心を持たない人は、まさに、井の中の蛙になってしまうように、歴史に目を向けない人は、同じく、氷を疑う夏虫ようになってしまいます。一例をあげましょう。「清潔観念」がしっかりとしているとされる日本は、一見して伝染病と縁のない土地と思われるかもしれませんが、日本——もちろん、この高知も——も感染症のために多くの人が命を落とす歴史があります。

明治時代と聞いて、多くの人は「開国」や「近代化」などを連想するでしょう。それはそれで間違った連想ではありません。ただし、牛鍋と散切り頭とともに流行したのが、コレラという感染症です。わたしが研究している明治初期の高知の新聞は、県の政治や法律の改革などのほかに、人々の日常生活に直接かわる話題をおおくとあげています。そして、当時の話題の一つは伝染病のコレラです。当時は、「三日コロリ」、「虎列刺」などと書いています(興味がある人は<https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/data/open/cnt/3/50/1/ssr4-46.pdf>を見てください)。例えば、1882年7月15日の『高知自由新聞』の記事に、コレラで死んだ人は潮江川(今の鏡川)の南にある潮江村の北中山に埋葬されなければいけない、とあります。コレラに罹り免疫力の弱い感染者は感染から2日ほど重症に陥り死亡することが多かったのです。だから、三日コロリとも呼んでいます。今のようなソーシャル・ディスタンス政策はなかったのですが、死体は「隔離」されていたようです。「昨日のコレラ死亡者数は4人」といったような、小さな記事を目にすることもあります。けっして明治時代だけではありません。第一次世界大戦後のスペイン風邪もよく知られていますし、戦後の混乱の中で拡大する伝染病の撲滅が占領軍の一大関心事でした。実は、1964年に行われるオリンピックの直前、東京でコレラの流行を辛うじて封じることが出来たそうです(貫志健介、『1964年東京ブラックホール』、NHK出版、2020年)。

## 岩倉秀樹先生(憲法学)

### 新型コロナウイルス感染症と憲法 —マスク着用の義務化は言論の自由の侵害か—



2020年11月10日、アメリカ疾病対策センター(CDC)は、日本の研究を根拠に、新型コロナウイルス対策としてのマスクの着用は、感染者のウイルスの拡散防止に加え、自分の感染リスクの軽減にも有効だとする新しい指針を発表した。連邦政府はCDCの勧告にとどまるが、36州は、何らかのマスク着用の義務化を行っている(同年11月18日付USA Today紙)。

ところで、同年7月22日、ミネソタ州のワルツ知事は、コロナの感染拡大を防ぐため屋内の公共スペース(店舗・公共施設等)でのマスク着用を義務づける行政命令を発したところ、有権者の団体と共和党議員が、この行政命令を差し止める仮処分をミネソタ地区連邦地裁に申請した(Minnesota Voters Alliance v. Walz事件)。原告らは、本件行政命令について、マスク着用義務に抗議する目的でマスク非着用で屋内の公共スペースへ立ち入ることが許されなくなるため、「言論の自由」を保障する合衆国憲法修正1条に違反すると主張した。

しかし同年10月2日、シルツ裁判官は、原告らの修正1条違反の主張について以下の2つの理由で勝訴の見込みがないとして、この仮処分の申請を退けた。まず第1に、本件行政命令は、修正1条と全く関係しない。国旗焼却等の「表現行動」も一定の範囲で修正1条の保護を受け、その規制は1968年のオブレイン事件連邦最高裁判決(United States v. O'Brien)で示されたテストで審査される。しかしながら、メッセージの伝達を意図した法令違反の行動のすべてが修正1条の保護に値するとしてこのテストの下で審査されるわけではなく、その審査に服するためには、当該法令の規制対象である行動が「本来的な表現」である必要がある。マスク非着用者を見かけた第三者には、さらなる説明がなければ、その非着用の理由(本件行政命令の免除者なのか、マスクの携帯を忘れただけなのか、あるいは政治的メッセージの伝達を意図しているのか)が理解できず、この事実、当該行動(マスク非着用)が修正1条の保護に

今回の新型コロナ・ウイルスが猛威を振るう前、このような歴史に注目するのは医学史の専門家ぐらいでしたが、これからは、感染症と文明社会の関係が新たに脚光を浴び、また多様な研究が出てくると思います。

あるテーマについて研究を重ね新しい知見を得た学者は、それをほかの専門家と共有するために、学会に参加するものですが、コロナのために多くの学会は中止にされ、あるいはオンライン化されてしまっています。生身の人間を相手に自分の研究を披露できないので、おおくの学者は窮屈な思いをしているに違いありません。発展途上の研究には、他の人の意見や批判が欠かせません。わたしも8月に学会参加を予定していましたが、来年の8月にオンラインで行うということになっています。ウイルスが多くの犠牲者を出してしまっている開催予定地の現状、また感染リスクを抑えることを考えれば致し方ないです。しかも、学会が行われる場所(多くは他県もしくは外国)まで行かないですむという時間的負担の軽減とその分の(飛行機や自動車などによる)二酸化炭素排出量の削減を考えると、一概に「悪い事」とも言えません。我々が不要不急の外出を自粛することで押さえようとするウイルス感染が終息した後も、数多くの学会やワークショップがひきつづきオンラインで行われる可能性が高いです。

一方、「(不要不急)」という言葉は、教育に従事する者たちにも「じゃ、何が(要)で(急)だろうか」という判断を迫ります。わたしが教えている国際日本学には、「(異国なる)視点」が不可欠ですが、例の「井の中の蛙」ととって、大海は、今自分がいる狭い井戸の中を離れてわざわざ見に行く必要のある場所でも、急いで知識を得る価値のあるところでもありません。学会はさておいて、コロナウイルスの感染拡大が食い止められ終息すれば、学生たちがすぐに留学に挑戦して世界各地で見聞を広げてくる機会を逃さないようにしてほしいです。同時に、日本の過去と現代がどのように繋がっているのかについても関心を新たにしていく必要を痛感しています。言うまでもありませんが、二者は密接に繋がっています。例えば、わずか10年前にハイチという国で大きな地震が起きましたが、続く混乱の中で伝染病が流行しました。まさに、コレラでした。25年前に大量殺戮がおきたルワンダでも、内戦を逃れようとする難民の間でコレラが流行り多くの人が犠牲になりました。明治のコレラ、ハイチとルワンダのコレラ、令和のコロナ…無関係であるとはとても思えません。

年表の「〇〇事件」や指導者の「偉業」などの暗記に明け暮れるのではなく、自らの祖父祖母とその前の世代の人々が生きた歴史について学ぶこと、また、ネットの検索画面のニュースピックだけに流されずに海外の事についてきちんと好奇心を持ち自分の理解を深めること——人文系の大学生として当たり前のそれらは、以前にもまして、「(要)で(急)」な課題ではないでしょうか。

値する「本来的な表現」に当たらない証拠である。

第2に、本件行政命令は、仮に修正1条に関係するとしても合憲である。まず、マスクの着用・非着用が「本来的な表現」に当たるとしても、本件行政命令はオブレイン・テストの下で合憲である。このテストの下で、政府規制は、それが政府の憲法上の権限内にあり、重要な政府利益を助長するものであり、その政府利益が自由な表現の抑圧と無関係であり、かつ、それに付随する言論の自由への制限が当該政府利益の助長に必要な範囲に限定されている場合、正当化される。本件の場合、①州が憲法上市民の健康・安全を保護する立法措置の権限を有することは明白である、②本件行政命令が死に至る強力な伝染病の拡大防止という重要な政府利益を助長するものであることは明白である、③本件行政命令は自由な表現の抑圧と無関係であり、かつ、それに付随する言論の自由への効果は必要な範囲に限定されている(行政命令に違反して他の市民の生命・健康を危険にさらすことを除くあらゆる方法により、原告らは本件行政命令に関する意見を自由に表明できる)、したがってこのテストを充足する。さらに、本件行政命令は、マサチューセッツ州の強制的天然痘予防接種法を合憲とした1905年のヤコブソン事件連邦最高裁判決(Jacobson v. Massachusetts)で示されたテスト(公衆衛生上の危機に対処するために採択された法令が、その危機と真正または実質的に関連性を有するか否か、そしてこの関連性を有する場合、憲法上の権利の明白な侵害が疑いもなく存在するか否かを審査する)の下でも合憲である。本件の場合、①本件行政命令が、コロナによって発生する公衆衛生上の危機と真正または実質的に関連性を有することは明白である、②前述したように、本件行政命令は、修正1条に関係しないか、あるいはその言論の自由への効果はせいぜい付随的で些細なものである、したがってヤコブソン・テストも充足する。

本件のマスク着用の義務化を修正1条に違反しないとした連邦地裁の判断は、妥当なものといえよう。同じマスク規制であっても、仮に管内閣打倒と書いたマスクの着用が禁止されたらすれば、それは表現内容に基づく規制で表現の自由の侵害に当たるとし、デモ参加者のマスク着用を禁止する香港の覆面禁止法(2019年10月5日施行)は、表現の自由および結社の自由で保護される匿名言論の権利の侵害に当たると判断されるべきである。

# 留学生

学生  
研究  
報告



# 誌面発表会

いつもの年なら、留学から戻ってきた学生による留学生帰国報告会」が開催されています。しかし、今年度は、そのような会を開くことが難しく、お互いの留学経験を共有することができませんでした。そこで、この誌面を使って、発表会を開催したいと思います！途中で「帰国しなければならなかった人もいました」が、留学先での経験は、一生ものです。今回は、長期交換留学生として派遣された3名の留学生に、6つの質問をしてみました。

## Q & A

- Q1 どこに、なぜ留学を決めたのですか？
- Q2 その国での印象深い経験は何ですか？
- Q3 留学生活で悩んだことは何ですか？
- Q4 留学生活の魅力は何ですか？
- Q5 留学先の授業について教えてください！
- Q6 読者の皆さんに伝えたいことがあればお願いします！



**山本 悠さん** (言語文化系:英語学・国際文化領域)

◆留学先: Elms College (アメリカ合衆国・マサチューセッツ州)



- A1 私は、2019年8月より、アメリカのElms Collegeで長期留学を経験しました。留学の目的は、英語力の向上、アメリカ文化を体験すること、そして外から日本を見ることでした。中でもアメリカを選んだ理由は、世界各国から人々が集まる国で、様々な地域の人と異文化交流ができると思ったからです。
- A2 9か月間の滞在の中で、一番心に残っている出来事は、高知県立大学からの短期留学生と現地学生との交流を目的として開催された、よさこいパーティーです。私は、主催者の中で唯一のよさこい経験者ということで、振付考案や当日のダンス指導などを任せられました。開催までに、大きな不安や緊張に襲われましたが、事前準備と練習に力を入れたおかげで、イベントを成功させることができました。異国で多くの人を前にイベントを遂行するという初めての経験により、自分に新たな自信を得ることができた貴重な経験でした。
- A3 留学生活において悩んだことは、言葉と文化の違いです。コミュニケーションを図る上で、英語力だけでなく、ジェスチャーや表現、考え方の違いを理解することも非常に重要だと感じました。アメリカと日本で、意味の異なるジェスチャーや表現は会話を混乱させます。また日本のように察するという文化がないため、自分の意見や思ったことはしっかり伝えることが尊重されます。こういった違いを理解し、自分の中に落とし込むことで、徐々に会話も発展するようになりました。
- A4 このように普段自分が挑戦しないことに挑む機会に恵まれ、幾度も困難に立ち向かう経験ができることは留学生活における魅力だと思います。さらに、他国の文化を味わえることも魅力の一つです。多くの人種が集まるアメリカでは、様々な国の人々と交流する機会も多く、お互いの国を紹介しあい、気軽に異文化に触れることができます。
- A5 留学先では、East & West collaborationという授業を受講していました。授業内容は、日本のアニメや漫画、作品を通して西洋の文化と比較研究するというものです。日本人には当たり前のことを指摘されたり、学生が注目していると、改めて日本について考えさせられました。留学の目的の一つである、外から日本をみるということが体験できました。
- A6 海外での日常の小さな出来事は、自分にとっては障害となったり、大きな喜びにもなったりします。日本から飛びだして初めて得られる出会いや発見を求めて、より多くの人に留学を体験してもらいたいです。





## 福岡銀花さん (言語文化系)

◆留学先：北京聯合大学旅游学院 (中華人民共和国・北京市)



- A1** 中国に留学しました。留学しようと思ったわけは、大学の授業で中国語を学んでいるうちに、中国語を喋れるようになりたいと思うようになったこと、大学生のうちいろいろな経験を積みたいと考えたことです。また、中国からの留学生と仲良くなったことが本当に大きいです。
- A2** 心に残っている経験は、四川とハルビンに旅行に行ったことです。中国の広さと、人の温かさをたくさん感じました。ハルビンは、数年前にテレビで見得てからずっと行きたかった場所で、画面越しに見ていた世界に来ることができたんだという達成感を非常に感じました。
- A3** 留学生活で悩んだことは、授業を中国以外の外国人と受けていたため、中国人の学生と実際に話す機会が少なかったことです。そこで、北京にいない中国の友人に、北京にいる人を紹介してもらったり、交流会に積極的に参加したり、公園で麻雀をしているおじちゃんおばちゃんたちの輪に飛び入り参加したり、中国ドラマを見たりして、よりネイティブに近い中国語を習得しようとしてきました。中国に行ったから自然に中国語が身につくわけではなく、どんな場所においても自分から積極的に行動することの大切さを実感しました。
- A4** 留学の魅力は、現地の雰囲気を感じ、様々な価値観に触れて自分の世界を広げられることです。また、日本で一人暮らしをしていると、アルバイトである程度自分でお金を稼いで、年齢的にもほとんどのことは自分一人でこなせます。しかし、中国でははじめ、電車の乗り方等人に教えてもらってできるようになることばかりでした。今日本で買い物も、交通も全部スムーズにできているのは、自分の生活能力が高いからではなく、そのような仕組みを作って、支えてくれている人々のおかげである、という当たり前のありがたさも感じました。
- A5** また、希望すれば太極拳や中国画の授業を受けることができ、文化についても学べて面白かったです。
- A6** 最後に、読者の皆様には、自分のやりたいと思ったことに対して自分なりに行動することは素敵だ、と伝えたいです。恥をかいったり孤独を感じることもあるかもしれませんが、新しい視点と出会いが待っていると思います。



## 別役来望さん (地域文化・地域づくり領域)

◆留学先：慶南科學技術大學校 (大韓民国)



- A1** 幼いころから韓国に興味がありました。日韓関係はマイナスイメージが多いですが実際はどうなのか、自分で確かめたいという思いが強くなり留学を決意しました。
- A2** いろんなことがあったので選ぶのは難しいですが、長期休暇中に訪れたゲストハウスで韓国人5人ほどと泣きながら日韓の将来について語り合ったことですかね。
- A3** 日韓関係の話をするときに語学能力が不足苦勞しました。留学先では別役来望と言う私である以前に日本人という私で見られることが多いため私の意見が日本の意見とみられないように必ず前置きをして話すようにしていました。
- A4** 留学生活の魅力は、韓国で言えばまだ日本に入ってきてないコスメを格安で試せることですかね(笑)
- A5** 韓国史の講義です。韓国史を担当してくださった教授はスヌン(日本で言うセンター試験)の社会科目の問題作成を担当している方でした。その教授が檀君神話について教えて頂いているときに「自分が学生の頃は檀君が存在した」という教育を受けたとおっしゃっていました。韓国がなぜ檀君と言う存在を作り上げたのかは三国遺事が作成された当時の社会背景も大きく関連しており、様々な社会問題で不安の多い国民に韓国と言う存在が偉大であることを教えとくために檀君と言う存在ができたとのことでした。それと同様に教授の時代も国民に対し韓国の権威を維持するためにこのような教育がなされていたようです。ただ単に偽りの教育を行っていることを知るのではなく、なぜ行ったのかを知ることで、理解を深めることが可能なだと韓国史の講義を通し学びました。
- A6** 私は留学に行く前「韓国に行って将来どうするんだ」と周りから言われることが多かったです。やはり英語圏と違い将来性との結びつきは少し薄いのかもかもしれません。しかし、人生は長いので1年くらい将来に役に立たないかもしれないことをしても大丈夫です。チャンスが来たのなら、興味関心ある世界に飛び込むのも大事だと思います。将来役に立つと思って行ってきた勉強が、社会に出て本当に役に立つのかそんな未来にならないと分からないのですから。留学も同じようなものです。勉強は不得意ですが留学と言うのは遊んで学ぶことの方が多様な気がします。次いつ交換留学が再開されるか分かりませんが留学に行く方は思う存分遊んでください。

### まとめ

留学の魅力は、自らの五感を通じて経験した人にしかわからないもの.....。現在、私たちには人と人とのつながりについて考える時間が多く与えられています。皆さんも日本国内だけでなく、地球全体に視野を広げてみませんか?そして、早く留学が再開できますように...

# 文化学部生

## ってどんな人？

文化学部生は  
なにを学び、  
なぜその領域を  
選択したのか？

文化学部は幅広い領域に分かれており、多様性あふれる学部です。何でも学べるからこそ、領域選択では自分が何を学びたいのかを深く考えるきっかけとなるのではないのでしょうか。今回は言語文化系と地域文化創造系の学生に「なにを学んでいるのか」「どのように領域選択を行ったのか」などをインタビューしました。

- Q1 選択した領域でしはどんなことを学んでいますか。また、何を学ぶことができて考えますか。
- Q2 領域を選択した決め手はなんでですか。
- Q3 領域での学びを今後どのように活かしていきたいですか。
- Q4 領域選択で迷っている学生にアドバイスをお願いします。
- Q5 ???

Q5では領域  
ならではの  
疑問をお答え！

## 言語文化系



英語学/国際文化領域  
藤原 ゆうか  
(石山ゼミ)

- Q1 英語学・言語学の基礎をはじめ、実践的な英語スピーキングやライティングを学んでいます。これに加え、英米文学の文学作品や異文化コミュニケーションを通して、自国の視点だけにとられない異文化理解を深めることができます。
- Q2 英語を音声学的又言語学的視点から学ぶことができ、英米文学作品を分析することができるなど、枠にとらわれず、広く外国の文化について学ぶことができるということが決め手だったと思います。しかし自分が学びたいものを履修していたら、この領域になっていました。
- Q3 将来、英語教員を目指しているため、英語の文法だけでなく、文化なども伝え、少しでも外国に興味を持ってもらえるように活かしたいです。また、グローバル化が促進することが考えられるため、異文化を理解することにも活かしたいと思います。
- Q4 自分のやりたいこと、興味を持っている科目を履修していると自ずと領域は決まってくると思います焦ることなく、少しでも興味のある科目を履修し、選択の幅を広げたいうえで領域選択を行っても大丈夫だと思います。
- Q5 **どの程度の語学力が必要ですか。**  
2年生辺りからTOEICの点数によって受講することができない科目が出てくるため、そのスコアをしっかりと取り、継続した英語学習をすることが大事です。英語教員になるためには、TOEIC L&Rで700点以上取得することが望ましいようです。

- Q1 主に方言や文学を通して日本語の成り立ちや歴史、文化を学んでいます。また、日本語を外国語と比較し、外国から見た日本語の難しさや文化背景の違いから現れる言語の違いを知ることができます。
- Q2 大学の勉強を通して日本語の成り立ちが文法という観点だけでなく、文化や歴史の観点でも研究できることが興味深く、より深く学びたいと思い日本語系を選択しました。また、元々文学の時代背景や文体などを見るのが好きだったのも大きかったです。
- Q3 私は言語は当たり前のように使用しているからこそ、その存在や意味に疑問に思っていないことに気付きました。そこから、物事に疑問を持つことや多角的な考え方の重要性を選択した領域で学んだので、卒業研究の調査や就職活動の企業研究などで活かしたいです。
- Q4 当時、私もとても迷っていたのですが、最終的に今まで取ってきた講義の中で、自分がどの分野に詳しくなりたいかを重視しました。また、文化学部は興味があれば領域外の講義も取ることも出来ます。私も日本語領域ですが、地域系の領域の講義を取っていました。
- Q5 **どんな文学作品を学ぶことができるのですか。**  
現代文学では、三島由紀夫の『仮面の告白』や古井由吉の『杏子・妻隠』、古典文学では『源氏物語』を学びました。

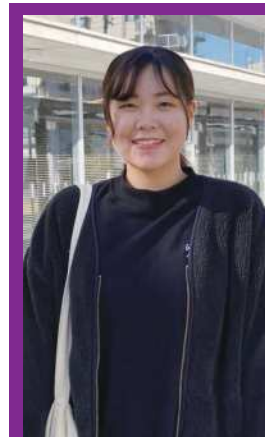


日本語学/日本文学領域  
坂本 響子  
(石山ゼミ)



## 地域文化創造系

- Q1** 主に文化財について学んでおり、町並みの景観保護の取り組み、寺院や神社、城郭、住宅といった建築の特徴、復元に至るまでの過程について学びます。文化財を守るための活動、対策、職人達の巧みな技法について学ぶことができると考えます。
- Q2** 景観文化論の講義を受講し、文化的景観を持つ町並みが景観を守るための取り組みや城郭の建築技法の種類に興味を沸かしたからです。また、文化学課題研究ゼミナール発表会で4回生の発表を聞いて、おもしろそうだったのも決め手です。
- Q3** 文化財のひとつでもあり、観光地としての魅力も持つ文化的景観を守り、観光地としての認知度を上げていきたいと思っています。問題となっている人手不足により景観が荒れてしまうことの軽減や観光地としてのPRを行えたらよいと考えています。
- Q4** 文化学課題研究ゼミナール発表会で先輩達がどのような研究を行っているのかを知ると、自分がどんなことに興味があるのか分かります。私も領域選択では悩みましたが、自分の興味のある分野について研究する方が楽しめると思い観光領域を選択しました。
- Q5** **地域づくり、観光のどちらにも興味がある場合はどのように領域選択を行うのが良いと考えますか。** 地域系、観光系それぞれの講義を受講してみると、自分にどちらが向いているのか分かるきっかけになると思います。観光領域には県外を訪れフィールドワークを行うところもあるので、各領域がどのような研究方法を行うのか知っておくことも大事だと考えます。



観光文化/観光まちづくり領域  
**木田 奈々華**  
(三浦ゼミ)

- Q1** 私は地域の生活や暮らしを支える政策や産業について学んでいます。また、地域づくり領域では上の分野に加えて、経済や防災などについても学ぶことができると考えます。
- Q2** 入学時から学びたいと考えていた地域振興や地域の活性化に一番近い分野だと感じたためです。
- Q3** これまでサークル活動や勉強はもちろんですが、日常生活に関する分野を意識したり、気づきを得たり、学びを活かすことができたと感じることがありました。今後も気づきや新たな学びにつなげるきっかけや経験として活かしていきたいです。
- Q4** 地域づくり領域では幅広い分野が学べる文化学部の中でもいろんな分野が学べる領域だと感じています。自分の学びたいことにつながる、つなげられる部分が少しでもあれば、ぜひ地域づくり領域を検討してみてください！
- Q5** **地域づくり、観光のどちらにも興味がある場合はどのように領域選択を行うのが良いと考えますか。** 地域づくり領域でも観光に全くかかわらないということはないと思います。本格的に観光について学ぶことは難しいかもしれませんが、観光の科目もとることはできますし、地域づくりの領域でも関連付けて学べると考えます。



地域文化/地域づくり領域  
**吉川 真布**  
(清水ゼミ)

- Q1** 憲法、民法、労働法などを判例や文献を用いて学んでいます。法律の基礎知識や、法律の視点から社会でどのようなことが問題になっているのかを学ぶことができます。また、論理的に物事を考える力を身につけることができると考えます。
- Q2** 元々、法律に興味・関心を持っていて、法律の授業を多く取り、卒業論文を著作権法に関連するもので書こうと思っていたので、法領域を選択しました。
- Q3** 法領域で学んだことを今後、法学検定や資格などの取得に活かしていこうと思っています。
- Q4** 領域を決めるのは中々難しいと思いますが、まずは、どんなことを学べる領域なのかを調べたり、先生に聞きにいたりして領域選択を行ってみるのがいいと思います。また、自分の話しやすい先生のいる領域を選んでみるのもいいと思います。
- Q5** **将来を考えた上で、どの程度法について身につけたいと考えていますか。** 日常生活でトラブルが起きた時に対応できる程度に法について身につけたいと考えています。



現代法文化/生活法文化領域  
**堀本 早里奈**  
(菊池ゼミ)

## 編集後記

各領域の方々のお話が聞けたことで、文化学部がどんなことを学んでいるのかを知ることが出来たのではないのでしょうか。領域選択で迷っている方に少しでも自分の進む道を見つけるきっかけとなると幸いです (児玉)

自分も含め、選択理由は人それぞれですがみんな選択した領域を楽しんで学んでいることが分かりました。残りの大学生活も、最後まで選択した領域を楽しんで学んでいきたいと感じました。(藤林)

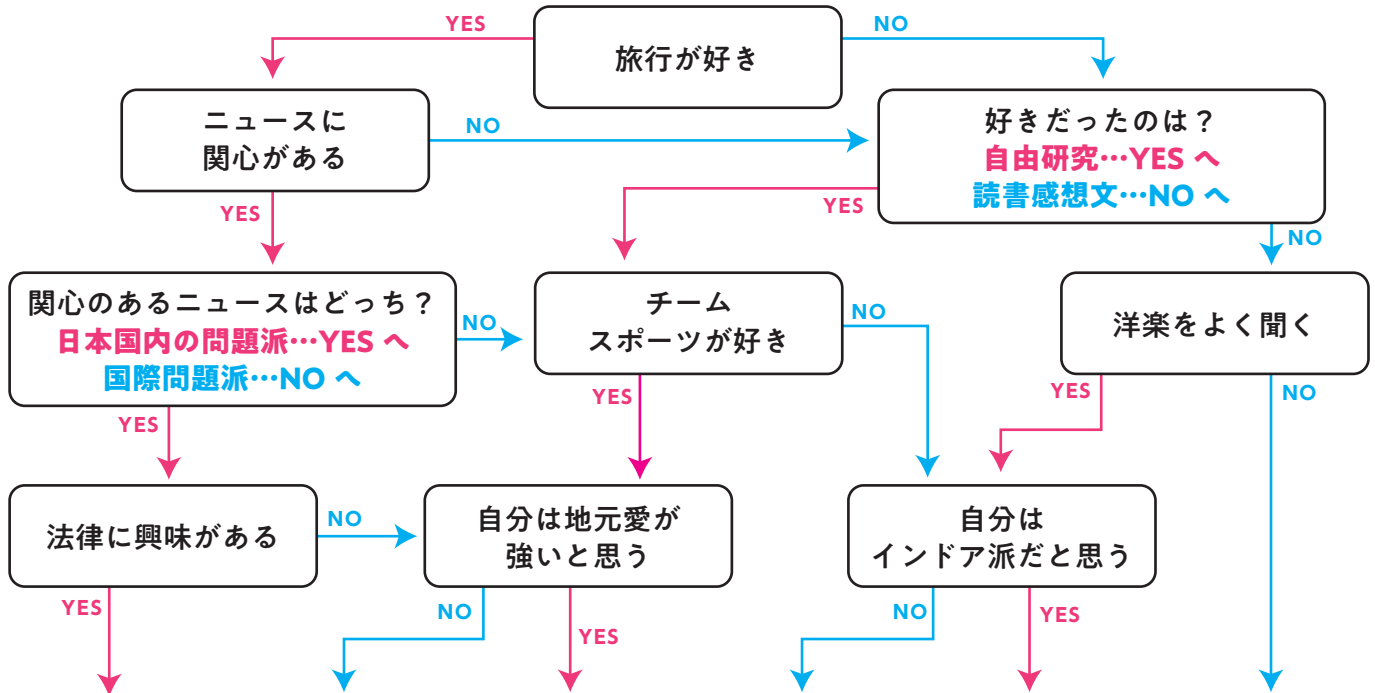
私たちが所属する文化学部って何を学んでいるのだろう、という疑問の答えが詰まっている内容です、皆さんの文化学部に対する印象は変わったでしょうか。(村田)

学部生が作った！ 診断コーナー

# どの領域に向いているかな？

文化学部には6つの領域があります。質問にYESかNOで答えてあなたが向いているかもしれない領域を見つけてみましょう！※あくまで参考程度です

## START



**A**  
**現代法文化・生活法文化領域**  
 法の背景にある文化・思想やそれらと法との相互関係の理解、そして法を文化の一つとして捉え文化の理解を深めることで文化の形成・維持・発展に寄与できる能力を持つ人材を育成します。

**B**  
**観光文化・観光まちづくり領域**  
 観光という観点を手掛かりに文化現象を理解し、現代社会の諸問題を考察する人文・社会科学の研究方法を学びます。さらには企業活動、景観・環境アメニティ、文化財、異文化理解、倫理学をめぐる問題について考える視点や手法を身につけます。

**C**  
**地域文化・地域づくり領域**  
 持続可能な地域づくりに向けて地域文化や地域政策をどのように活かしていくのかについて学びます。フィールドワークだけでなく、様々な角度の分野から地域を分析していきます。

**D**  
**国際文化領域**  
 異文化の学修や国際的な視点から日本文化を見つめ直し、国際関係をより詳しく学ぶことでグローバルな思考力と実践力を養います。

**E**  
**英語学領域**  
 英語学・言語学の理論を実践的なトレーニングを通じて学び、英語運用能力を身につけます。

**F**  
**日本語学・日本文学領域**  
 日本文化に加えてそれらと関わりがある中国文学を学びながら、自分自身も持っている感性や能力を養っていきます。

当てはまらなかった分野にも  
 あなたの可能性は無限大です！

もっと詳しく知りたい方へ  
 高知県立大学文化学部  
 ホームページはこちら→





# 県大かるた

## 地域づくりフィールドスタディを作ろう!

地域づくりフィールドスタディは、地域文化・地域づくり領域の専門科目です。2回生以上なら、すべての学生が受講できます。例年、グループワークや学外での活動、発表会といったアクティブラーニングが中心ですが、今年は、ほとんどがオンライン講義で行われました。

### 地域資源を発見する 視点や価値観を 身につけよう!

この講義では、「地域づくり」「まちづくり」の現場で行われている、「まちあるき」という手法を用いて、いままで見過ごしてきたものを改めて見直してみることをめざしました。

講義の前半は、草薙奈津子著『美術館へ行こう』を題材に、美術館の役割や存在意義を学びつつ、私たちの社会にとって価値あるものとは何かについて考えました。さらに、高知県立美術館の企画員（プロデューサー）松本千鶴さんに、美術館のお仕事だけでなく社会的役割や地域との関係についてご講義いただくとともに、松本さんのお仕事やそれに対する考え方を教えていただきました。そこで私たちは、「地域にあるもの」と“出会い直す”ことを学び、後半の講義では、今まで気にも止めなかったものをあらためて見直してみることにチャレンジしました。

後半の教科書には『犬も歩けば赤岡町』を用い、街に散らばっている「面白いもの探し」を真似してみました。自粛中のなか、実家にいる人は実家で、高知にいる人は高知で、「面白いもの」を探してレポートしました。それらレポートを共有していくなかで、一人一人の視点は唯一無二のもので、個性がはっきりと表れていることに、学生も教員もとても驚きました。

講義の最終回では、私たちの大学である高知県立大学のまわりや、自分の普段過ごしている空間のなかで、学生自身が「出会い直し」をして、カルタを作りました。普段何気なく通り過ぎていくところでも、「面白い」と思えば、おどろくほど世界が広がります。

少し無理のある札もありますが、ふふっと笑える札、大学生だなあと思える札、そんなものが



美術館へ行こう



犬も歩けば赤岡町

あったのか!  
と気づく札  
など、さまざま  
です。どうぞ  
ご覧ください。

## 「出会い直しワークショップ」

### 気になる場所やもの、人を撮影した写真

みんなでまちにある「面白いもの探し」をしました。思いがけない発見に、驚きのコメントもあれば、共感のコメントもありました。

#### ●写真に対して、写真撮影者のつぶやき

##### タイトル:「気分屋な鏡」

今日は機嫌を損ねてしまっているのか?ミラーを撮っている私さえも映してくれない。どんなものだったら映してくれるのか?昨日はしっかり映してくれたのに…

これは冬の寒い日によくみられる現象の一つである。ミラーが曇っているのを科学的な説明で片づけるのではなく、ミラーにも感情があるとして捉え直すと面白くなるのではないかと思った。



#### ★写真と眩きに対する評価者のつぶやき

ミラーにも感情がある、という捉え方が非常に鋭く面白い。

曇っているなあ、としか感じなかったミラーがそのつぶやきを通して見ることで、なんだかへそを曲げてそっぽを向いているように感じてかわいらしいとさえ思うようになるので不思議である。

心のうちの曇りを、ミラーに例えることで可視化しやすく想像しやすいのも素晴らしいと思った。

#### ●写真に対して、写真撮影者のつぶやき

##### 橋の裏側の写真

色が綺麗だったので撮りました。この写真は少しだけトリミングしていますが、なんとなくレゴブロック感があがります。

こんな場所で写真を撮るとは思っていなかったのが驚きました。



#### ★写真と眩きに対する評価者のつぶやき

〇とてもいい感じの青色で結構好きな写真です。撮影者さんが言っているように、確かにレゴブロックみたいでとても橋の裏側を切り取って撮影したとは思えないくらい良い完成度だと思います。今度橋がある所を通ったら裏側も見てみたいと思いました。

〇とてもかわいくて鮮やかな色の端で驚きました。この写真だけ見ればインスタ映える壁的なものに見えます。ネジ?の部分が確かにレゴブロックにみえてかわいいです。

#### ●写真に対して、写真撮影者のつぶやき

##### 国見印章堂の上にある看板

電車通り沿いから見ると「はん」となっているが、違う位置から見てみると「ばん」となっている。初めて見たときは「あれはなんだろう」と立ち止まって見たものである。見る人を迷わせたり、また見るだけでクスッと笑わせてくれるような看板は珍しいのではないだろうか。



#### ★写真と眩きに対する評価者のつぶやき

一瞬「この店は何屋さんだ?」となるような看板で珍しいと感じた。撮影者が立ち止まって見てしまったように、他にもあの看板を見て立ち止まってしまう人がいるのではないだろうか。そのことによって店の認知度も上がるのではないかと考えた。私もユーモアのある看板は好きなので興味深かった。



い

道の端、手押りの小さなゴミ箱さん。

（撮影：高知県庁舎前、アール・ド・フランス）

い

いい人といひモノの並置

（撮影：高知市）

い

美しい都

（撮影：高知市）

ろ

40センチ、学生会館までの距離が歩いて楽しくなる道のり。

（撮影：高知市立文化センター、高知市）

ろ

静かして、皆さんだけ若年層も、お疲れ癒して。

（撮影：高知市）

は

奥でない里と、仁徳川。

（撮影：仁徳川、仁徳川）

は

振り廻らされた、一方通行道路制限。

（撮影：高知市立文化センター、高知市立文化センター）

に

ニヒヒと笑うクマさんにつられて。

（撮影：高知市立文化センター「笑うクマさん」のそば、高知市）

ほ

話んもののトナリ？いやいやと静じたいー

（撮影：高知市）

へ

へたに誰んだら置き出しそう 熊のクワ

（撮影：高知市）

ち

ちゃんと手洗い、洗濯機使、みんなできよう 感染予防。

（撮影：高知市立文化センター、高知市）

ち

ちいさないのも、みつた！

（撮影：高知市）

り

（撮影：高知市）

り

電線風車（リょうひほりぶ）の山々  
遠くから代響と木の声

（撮影：高知市）

る

ループである高知のシンボル、新木造神社

（撮影：高知市）

を

2018年夏に暑いを越せる年

（撮影：高知市）

わ

笑う門には福来る

（撮影：高知市）

か

かっこいいところをみせたいけど  
こんな走り方をしたもんだから

（撮影：高知市立文化センター）

よ

よきこいは  
走る所で 発見できる  
高知のシンボル

（撮影：高知市立文化センター、高知市）

た

たくさんのごみの代わり人と福  
集まるようにと  
鳥居に祈る

（撮影：高知市）

れ

レストラン  
阪手倉見先目の外見で  
高知で一歩先立ってる

（撮影：高知市）

そ

借えよう、運決の鉄鋼を生かして。

（撮影：高知市立文化センター、北山山文芸資料館）

つ

釣りに行こう。準備オケー！！

（撮影：高知市）

ね

願いを込めて一歩、眺みわたる高知の空に。

（撮影：高知市）

な

鳴き声が響き渡りし土佐の杜

（撮影：高知市）

ら

（撮影：高知市）



む

向きそろえ、目角びつこと副体ゆ。



(撮影：高知市・高知大学)

う

上にも下にも壁がある 高知の街



(撮影：高知市)

う

うかんんでいる、たくさん鳥に驚かされる。



(撮影：高知県立大学(橋にある川))

あ

あ (り) つから色が見うのか、個性が光る木の葉っぱ



(撮影：高知県立高知女子芸術文化短期大学)

の

ノラ猫まがれて かくれんぼ



(撮影：高知市高知駅前地区)

お

尾長島と一緒に歩。



(撮影：高知市(高知駅前))

く


クリスマス、一緒にくろう幸せのアーチ



(撮影：高知市)

や

やる気が出ない中歩いてると、突然道端に大きな木が。なんとそこは小さな神社でした。



ま

間違えた人がいたのか 何人も



け

飯車以外の家は、



ふ

冬裸わ、上を向いて歩こう。



(撮影：高知市)

こ

こんな川 初めて見たとよ 仁徳ブルー



(撮影：高知市)

え

拾遺でみんなを見守るアンパンマン



(撮影：高知市)

え

笑顔いっぱいのお顔の ちょっとこわいブタコ



(撮影：高知市)

て

天狗が運行する車を取り替えています。



(撮影：高知市(高知駅前))

あ

壁に面白いタイプの窓、高知県代表



(撮影：高知県立高知大学)

さ

映いてなくとも垂せている



(撮影：高知市)

き

気づけば家族になっていた、高知家。



(撮影：ユースタウン高知駅前(高知家))

ゆ

ユーモアとデザインで伝える仕事の中身



(撮影：高知市)

め

運動場、市民の願いがここにある。



(撮影：高知市(高知市立中央運動場))

み

歴代時をまもるかどギョウザ



(撮影：高知市)

し

知らぬがらに、そこにはいたんだ。



も

申し出る電話がどれかわからない



(撮影：高知市(高知市立中央運動場))

せ

静寂して、やっとな見えた静けさ、遅よるな



(撮影：高知市)

す

静かな夜を映すは鏡川



(撮影：高知市)

ん

第一点 のどかな景色に目を奪えて




(撮影：高知市(高知市立中央運動場))

# ここが私のHometown!

高知県立大学には、日本全国から学生がやってきています。文化学部では高知県の方言や文化などを学ぶ機会がありますが、他の県の文化はどうなっているのでしょうか。各地域の代表者に、地元のおすすめあれこれを聞いてみました!

**沖縄県**



**大城 萌衣香さん**

☆おすすめの食べ物



- 沖縄そば  
県外のそばとは全く違うし、似たような料理もないところがポイント。中華麺が由来で作られていて、宮古そばとか八重山そばとか地域おこしのためにローカル呼称がついていることも多い。

☆おすすめの観光スポット

- 美ら海水族館  
定番のスポット。海洋博公園という括りの中に水族館があるから、水族館以外にも楽しめる。

☆他県の人に伝わらない方言

- でーじ  
「とても」  
でーじ以外にも、「しに」、「うすまさ」とか地域によって違ったりする  
例：今日はでーじ寒いね（今日はすごく寒いね）

**岡山県** 柿本 真奈さん



☆おすすめの食べ物

- えびめし  
真っ黒なご飯で見た目のインパクトがあっておすすめです。

☆他県の人に伝わらない方言

- ぼっけー  
「すごい、とても」

☆おすすめの観光スポット

- 美観地区  
重要伝統的建造物群保存地区にも指定されている、岡山の観光地といったところといえる場所です。モダンな雰囲気でもグルメなども楽しめます。



**和歌山県** 嶋 美涼さん



☆おすすめの食べ物

- マグロ  
串本マグロしゃぶしゃぶ御膳がおいしいです!

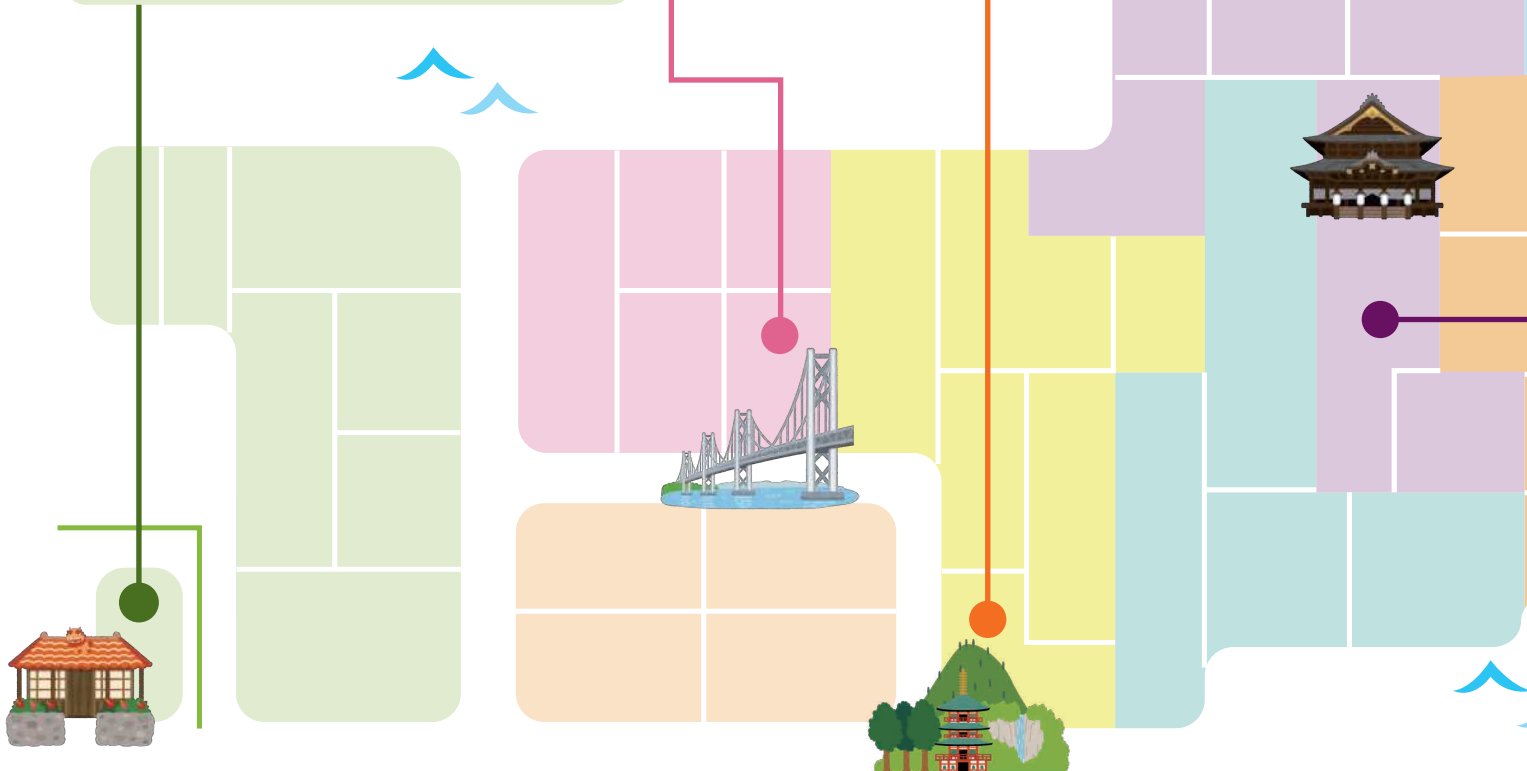
☆おすすめの観光スポット

- 橋杭岩  
夕焼けがきれい。時期によってライトアップ企画をしている

☆他県の人に伝わらない方言

- こんこ  
たくあん。  
漬物をたくあんと呼ぶのを知ったのは小学生のころでした!







## 編集部5名の ホームタウンでは？

■政木 美里 出身:広島県

☆おすすめの観光スポット

○厳島神社

瀬戸内海と弥山に囲まれ、自然豊かな厳島神社。歴史的な建造物と自然の美しさを感じられるスポットとなっています。また、厳島神社周辺には商店街があり、お好み焼きや牡蠣、あなご飯などの広島名物も食べることができます！

☆他県の人に伝わらない方言

「たいぎい」

(億劫な、面倒くさい)

毎日5回ぐらいは言ってるのではないのでしょうか!!

例)今日の授業、対面かいね?学校行かんじゃあいいけん、ぱりたいぎいじゃん。(今日の授業、対面かあ。学校行かないといけないから、とても面倒くさいね。)

■弘瀬 ほのか 出身:高知県香南市

☆おすすめの観光スポット

○のいち動物公園、ヤ・シイパーク

どちらも香南市といえば、という場所です

☆他県の人に伝わらない方言

「まける」

(こぼれるくらいギリギリいっぱい)

例)ジュースがまけまけいっぱい入っちゃう

■比江森 佳子 出身:高知県南国市

☆おすすめの観光スポット

○西島園芸団地

春になるといちご狩りをする事ができ、カフェスペースでお花に囲まれて食べるスイーツも最高です。

☆他県の人に伝わらない方言

「～ばあ」

(～くらい、という意味ですが分かってもらえません。)

例)5分ばあ遅刻した。(5分くらい遅刻した。)

■吉川 真布 出身:香川県

☆おすすめの観光スポット

○父母ヶ浜

海水浴場ですが"香川のウユニ塩湖"と呼ばれ、空が海に映る風景が撮れることで有名なスポットです!

☆他県の人に伝わらない方言

「えらい」

(大変、しんどい)

「朝からずっとえらい」みたいな使い方をします…!

■藤田 琉花 出身:愛媛県

☆おすすめの観光スポット

○内子町、八日市・護国地区の町並み

どこか懐かしく、フォトジェニックな町並みです!

☆他県の人に伝わらない方言

「だらい」

(とても面白いこと)

「このお笑い芸人めっちゃだらい」みたいに使います!

## 北海道 今井 俊太郎さん

☆おすすめの食べ物

○毛ガニ

北海道といえばカニ。醤油につけず、そのままいただくのがオススメです。

☆おすすめの観光スポット

○ガリンコ号(絞別市)

北海道は広いので、出身であるオホーツク管内の地域に絞って紹介していきます。流水粉氷船です。流水が来るのは冬限定ですが、オホーツク海を堪能することができます。近くにアザラシと触れ合える施設もあります。

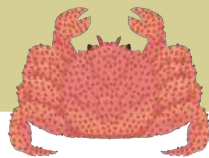
☆他県の人に

伝わらない方言

○ちよす

「触る」の意。

例)汚い手でちよすな!



## 長野県 代田 朗さん

☆おすすめの食べ物

○馬刺し

馬刺しは文句なしに美味しく、赤身が中心のさっぱりとしたもので、万人におすすめできます。

☆おすすめの観光スポット

○阿智村の夜景

全て阿智村で完結する田舎唯一のデートコース。日本唯一の星空の広がる夜空を一緒に見上げよう。パートナーと暖をとりながら一緒にオリオンをなぞろう!

☆他県の人に

伝わらない方言

○うら

「うら」は表裏の裏という意味でも使うけど、後ろという意味でも使う。倉庫のうらに置いていて～と言われたら、倉庫の後ろ部分に置いてけという意味です。



# 地域学実習徹底紹介！

地域学実習にはどんな活動があるの？

～2019年地域学実習Ⅱ鵜来島を無人島にしない可能性を考える～



では、実際に2019年度地域学実習Ⅱで行われた「鵜来島を無人島にしない可能性を考える」を見ていきましょう！この実習に参加した学生は文化学部生のみで、夏と冬の2回、泊まり込みで高知県宿毛市沖の島町鵜来島を訪れました。定住人口二〇数人となっているこの島を持続させるために文化学部生として何ができるのか、島民の方々が本当に望んでいる島の姿とはどのようなものなのかを意識して取り組んだ実習となりました。

聞き取り調査をしていく中で見えてきた大きな課題は、島外の人々との交流が希薄になっていたこと。島の伝統的な秋祭りでの交流以外にも、何か島外の方々との交流の手助けになるような取り組みがしたい！その思いから、実習では、“鵜来島ストリートマップの作成”と“花いっぱい運動”の植生調査を行いました。

他にはどんな実習があるのかな？

～地域学実習には1回生の時に履修するⅠと2回生以降に履修するⅡの2種類がある！～

**地域学実習Ⅰ**は県立大教員が域学共生コーディネータの協力を得ながら企画した実習を通して地域課題について学びます。

例えば2017年度に行われた活動では「中山間地域で地域の祭りに参加する」「カブを育て収穫する」など地域学実習の内容は様々です。実習終了後は実習内容や学んだことをまとめたポスターを作成し、展示します。

**地域学実習Ⅱ**は自分たちで地域の課題と向き合い、実習内容の計画を立てて課題に取り組みます。

地域のサマースクールにボランティアとして参加し、子ども達の夏休みの居場所づくりについて学ぶなど、自分が気になることをテーマに課題に取り組むことができます。

上の記事にある鵜来島での実習も学生たちが計画した内容です。



踊りを通して地域の方と繋がれたような気がしたな

写真左：小学生サマースクールの一環で、ソフトボール部の中学生と一緒に練習した一コマ。

写真上：香美市物部町に伝わる「はっさん踊り」。写真からも伝わる熱量がある。

写真右：他の実習グループのポスターを見るのも新しい発見があって楽しい。



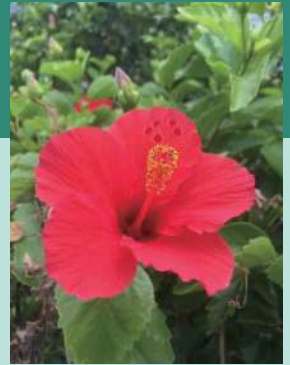
皆さん、「地域学実習」って知っていますか?「何それ、聞いたこともない。」「そもそも地域学って何さ」うんうん、分かりません。私も県立大生になるまでは、何をやる授業なのかさっぱり分かりませんでした。この地域学実習、つまり「地域に入って実習を行う」授業ですが、一体どのような目的で行われているのでしょうか。県立大の必修授業、「地域学実習」の活動を、少し覗いてみませんか?



島民の方々と一緒に空き家を見つけ、民家を見つけては地図に起こしていく作業…普段はすぐにスマートフォンでマップを見ることのできる私たちにとっては大変な作業でした…。植生調査では島の端から端まで植生を見つけては写真に収め、島に植えることができ、育てることができる植物を選んでいったのですが、予想以上に綺麗な植物が島には多くあり、新しい魅力をたくさん知ることができました!

## 何を学んだの?

島民の方々からお話を伺って行く中で、生活インフラの課題や島外の方々との関わりなど次から次へと課題が出てきました。正直、学生だけでは解決が難しい課題もたくさんありましたが、それらは全て、現地に行き、そこに住む人々の声を聴くことができたからこそ気づけたこと。自分たちができる範囲で考え、提案した二つの取り組みを通じて、新たな島の魅力を発見でき、島外の人々と島の人々との架け橋の一端になる取り組みができたことは、文化学部生として大きな学びになりました!このように地域学実習は自分の意識次第でかけがえのない経験をすることができるきっかけになるかもしれません!文化学部で学んだ日々の学びを活かしながら、このきっかけを逃さないよう地域学実習に取り組んでみてはいかがでしょうか?



## なぜ地域学実習を共通教養教育に置いているのか?

地域教育研究センター 一色健司

大学には個別の専門領域での学びを提供するとともに「良き市民」を育成するという使命があります。ここでの「良き市民」とは、社会に主体的に関わっていくことができる人のことです。社会へ関わり方にはいろいろなレベルがありますが、最も身近な関わりは生活の基盤である居住地域との関わりです。地域学実習には、自分たちが住んでいる地域に目を向けて、現実をしっかりと見てもらい、住民として地域とどのように関わっていくのかということを考えてもらいたいという狙いがあります。

また、地域学実習では地域の人と関わりを持つことを重視しています。地域には様々な価値観を持つ人たちがいます。置かれている環境や利害関係も単純ではありません。そのような人々と関わることによって、大学のような閉じたコミュニティでは身につけることができないコミュニケーション力、社会性を身につけてもらいたいと願っています。短期間の活動だけでこれらの力を身に付けることは困難ですが、多様な人々との関わり方の難しさや面白さを感じてもらっただけでも良いと思います。

居住している地域との関わりなくして生活することはできません。社会人になってからの自身の生活圏の人々との関わり方、居住している地域の課題への向き合い方を学ぶきっかけを地域学実習を通じてつかみ取ってもらうことを願っています。

## 編集後記

今回記事を作成しながら改めて地域学実習が私にもたらした影響とは何かについて考えていました。短い期間で行う実習ですので大きく私たちが地域に貢献した!と言うようなことはありませんが、地域との関わりかた、地域への入り方を実習を通し学んだような気がします。毎年実習場所を提供し協力してくださっている地域の方々には感謝しかありません。高知県立大学が地域によって守り育てられていると改めて感じることができました。



地域学実習Ⅱは令和2年度以降は選択必修になっています。地域課題に興味、関心がある方はぜひ受講してみてくださいね。



# NO Teacher NO University

様々な分野を学ぶことができる文化学部にはたくさんの教員がいます。大学教員といえば、堅い印象があるかもしれませんが。そんな教員の普段の姿、気になりますよね？そこで、今回は新しく高知県立大学に赴任された白岩先生について、学生に聞いてみました！意外な一面が見えるかも…

## 白岩先生プロフィール

名前	前	白岩 英樹(しらいわ ひでき)
出身地	地	福島県郡山市
地元の好きなおとこ		往時の宿場町らしく、甘味文化が豊か (おすすめは薄皮饅頭・ままだおる・エキソンパイ)
専門分野		他者論、比較文学、比較芸術
好きなもの		ひとの想いが載っているもの、 数値化や序列化からこぼれ落ちるもの
行ってみたい場所		アテネの古代劇場ヘロディス・アティコス(民主主義ゆかりの地!)
高知県の印象		自由民権運動発祥の地 (強烈なfreedom/liberty志向に憧れます)
アメリカの好きなおとこ		あれがダメでもこれがある、これがダメでもそれがある——圧倒的な文化的多様性から生み出されるポシビリズム(possibilism)が深く根づいているところ。



## 白岩先生をもっと深掘り！

### ◆経歴を簡単に教えてください。

大学でアメリカ文学を学んだのち、ジャーナリズムとアカデミズムの狭間で揺れ動きつつも、アメリカの新聞社に勤めました。しかし、大好きなアメリカ人作家(Sherwood Anderson)への思いが断ちがたく、大学院へ進学。その後、工業系の大学や医療福祉系の大学を経て、2020年4月に本学へ着任しました。ジャーナリズムにもアカデミズムにも一元的には収斂されず、それでいて他者と共振しうる表現を模索しています。

### ◆米文化に興味を持ったきっかけは何ですか。

当初は「英語史」を専攻しようと考えていたのですが、学部2回生のときに「アメリカ文学」を担当する先生に出会い、「彼のように生きたい。アメリカ文学にその秘密が隠されているのかもしれない……」と身の程知らずの想いを抱いたのがきっかけです。

### ◆尊敬する人は誰ですか。理由もお願いします。

ガンディーやキング牧師に影響を与えた思想家H. D. ソロー、アメリカの「詩的独立」を高らかに宣言したW. ホイットマン、「アメリカらしい」画業を女性で初めて成し遂げたG. オキーフ。皆、その生きざまが圧倒的であるにもかかわらず、表現自体がそれらを超越していることに魅せられます。

### ◆最後に、一言お願いします。

文化学部で学ぶ「人文知(humanities)」とは「人間とはなにか」ということに尽きると思います。作品世界でも現実世界でも多様な人間性(humanity)に触れ、あらゆる他者の痛苦に共振しうる自己を生成しあっていけたら本望です。真の共生社会はそこから始まる！





# 学生から見た白岩先生

## 白岩先生の第一印象と今の印象を教えてください

- 丁寧で生徒への思いやりの強い先生  
今:情熱的。意外と圧が強い。
- 顔と声が不一致、細身。  
今:とてもやさしい。ボーダー。
- 遠隔授業の声で優しいと思った。  
今:見た目と声が不一致。博識で細やかな気遣いができる。
- 温厚そう  
今:優しくて気さく。
- 明るくて優しいと思いました。  
今:親切で一人一人に気を遣ってくれる。信頼できる先生。
- 楽しそうな先生だと思った。  
今:アメリカ文学の先生ですが、幅広い分野の知識を持っている。
- 優しい先生。  
今:実際にとてもやさしく、親しみやすい先生。
- メールでのやりとりがすごく丁寧で、文面から優しいのが伝わってきました。対面でも、しゃべり方が優しく、優しい先生であるという印象でした。  
今:現在も変わらず、とにかく優しい先生!私たち学生の言葉をよく聞いてくれ、わかりやすいように、授業も行ってくれます。

## 先生を動物に例えると何ですか？

- 鷺
- はりせんぼん
- ハリネズミ
- ラクダ科
- 猫…行動力があって冷静に判断しているから。
- シマウマ…いつもボーダーを着ているから。
- カメレオン…趣旨の異なる話にもすぐに適応して為になるお話をしてくれるため
- カンガルーかな？

## 先生の意外な一面があれば、教えてください。

- マラソンをやっていたこと。
- 先日ぎっくり腰になったこと。
- 辛口な社会批評。
- いつもボーダーの服を着ているところ。こだわりを聞きたい。
- 白岩先生はボーダーのシャツしか着ません。
- たまに移るデスクトップが猫の写真だったり、録画中に猫が寄ってきたエピソードを聞いてほっこりした。
- SAINT JAMESをいつも着ているところ!

## 授業/ゼミの雰囲気教えてください

- 授業は知識を詰め込んだり、先生が一方向的に語り続けたりすることはほとんど行いません。映画や文学作品に触れ、そこから学生が何を感じたのかを広げていくような授業スタイルです。  
ゼミはまだ1期生しかいないので人数は少なく、アットホームな雰囲気があります。
- 授業はメリハリがある。  
ゼミは基本的にゆるやかで、落ち着いている。
- 授業は質問しやすい。  
ゼミは個人個人の意見を共有する機会が多い。穏やか。
- 授業は詳しいことまで説明してくれて落ち着いた雰囲気。ゼミはみんなで意見を共有し合うことができて穏やかな雰囲気。
- 授業は楽しめる雰囲気。  
ゼミは知的好奇心をそそるものを提供してくれるので充実して和やかな雰囲気。
- 授業はコール&レスポンスを大切にしているイメージ。ゼミはアメリカに関わる映画や本を見ながら意見をシェアし、基本知識やアメリカの背景を学ぶ。
- 授業は学問としてはもちろん、人生の役に立つような話も聞け楽しく受講できる。  
ゼミは資料をもとにゼミ生と先生で意見交換ができ、リラックスして受講できる。
- 授業は、学生のことを考えて、臨機応変に行ってくれているので、緊張せずに受けることができます。難しすぎたら、次は、難易度を下げてください、わかりやすく言い換えてくれたりします。
- ゼミは、授業より近い距離で、気軽に発言できたり、私生活のことを話したりできるので、楽しく行えます。

## これから先生に期待することはありますか？

- いいて言うなら、文学の読み方や映画の見方について先生独自のやり方があれば聞きたい。
- おすすめの映画を教えてください。どんな人生を歩んできたか気になる。
- 今まで通り、いろいろな作品や文章に触れるきっかけを与えてくれること。
- みんなが楽しく学んでいくことができるようなゼミをこれからも続けてほしい。
- 今のままのにこやかな先生でいてほしい。
- アメリカ文学のみならず幅広い知識を更に教えていただきたいです。
- 先生が担当する授業の種類がもう少し多いと嬉しいです。
- これからは、先生と色々なことを話して、近い距離感で一緒に研究テーマに取り組みたいです。



# 先生の専門分野について、 もっと教えてください！



高知県立大学文化学部には、様々な専門分野の先生がいます。

普段教わっている先生たちがどのようなきっかけでその分野を研究しようと思ったのか、不思議に思ったことはありませんか？このコーナーでは、文化学部の3人の先生にそれぞれの研究分野を表すアイテムをご紹介します。専門分野に迫ります！そして、私たち編集部が紹介された本を読みました。

## 橋尾直和先生(日本語学・方言学・社会言語学)

■朝日講座『探検と冒険』全8巻(1972)朝日新聞社 ほか4冊

■金谷武洋『日本語文法の謎を解く—「ある」日本語と「する」英語』(2003)ちくま新書 ほか4冊



こんにちは、橋尾直和です。今回、私が大学・大学院時代から現在に至るまで、影響を受けた書籍・映画・テレビアニメ・ドラマなどを紹介したいと思います。

私は大学時代、探検部に所属しており、探検・冒険譚を読みあさっていました。当時は、バブル絶頂期で、まだ地球上では、地理的空白地帯があり、職業としての探検家・冒険家も夢じゃない、という風潮がありました。愛読書だったのが、朝日講座『探検と冒険』全8巻(1972)朝日新聞社です。また、本多勝一氏の『極限の民族—カナダ・エスキモー ニューギニア高地人 アラビア遊牧民』(1967)朝日新聞社があります(講談社文庫として再刊)。本多氏は、京都大学探検部出身の元新聞記者です。朝日文庫の『冒険と日本人』(1986)もお薦めです。目標を目指して果敢に挑むチャレンジ精神が学べます。

最も影響を受けたのが、トール・ハイエルダール博士の『コ

ン・ティキ号探検記』(1969)筑摩書房です。文化人類学者で探検家である博士が、巨石文化がインカ帝国から海を渡ってイースター島に伝えられたことを、バルサ材の筏に乗って実証しようとした記録です。『葦舟ラー号航海記』(1971)草思社も著しています。大学時代に沖縄から九州まで、ドラム缶筏「ニライ・カナイ号」、20年後には、土佐清水から伊豆の神津島まで、葦船「カムナ号」で黒潮に乗って航海しました。紀行文・ルポなど、文章を書く訓練になったのも、これらの本のお陰です。

感銘を受けた専門書には、金谷武洋氏の『日本語文法の謎を解く—「ある」日本語と「する」英語』(2003)ちくま新書、『英語にも主語はなかった—日本語文法から言語千年史へ』(2004)講談社選書メチエ、『日本語は亡びない』(2010)ちくま新書、(2013)『日本語に主語はいらない—百年の誤謬を正す』講談社選書メチエがあります。三上章氏の『象は鼻が長い—日本文法入門』(1960)くろしお出版がベースになっており、日本語の「主語不要論」が明快に述べられています。必読の書です。

お薦めの映画は、「レイダース—失われたアーク《聖櫃》」(1981)です。探検家に憧れていたので、当然です。民俗学的な視点から観ると面白い作品は、「もののけ姫」(1997)、「千と千尋の神隠し」(2001)です。テレビアニメでは、「未来少年コナン」があります。宮崎駿監督の作品は、奥が深いです。最近の作品では、「鬼滅の刃」(2020)です。炭治郎たちが鬼に立ち向かうために修行をする姿が、私が稽古する合気道にぴたりと重なります。

そして、ドラマは、何と言っても「JIN—仁—」です。コロナ禍で再評価され、「レジェンド」として再放送されました。私は土佐弁監修を務めました。タイムスリップした江戸時代の道具を使ってペニシリンを製造して、人びとを救うストーリーには、本当に感動しました。

## 編集部が先生オススメの本を読みました！

金谷武洋

『日本語に主語はいらない—百年の誤謬を正す』

日本語の「は」は、主語ではなく主題、「が」も主語ではなく主格補語つまり、日本語を説くのに主語の概念は必要でない、と主張されています。

日本語が曖昧な言語だといわれるのは、英語文法に当てはめて考えた結果、そう捉えられるようになったとわかりました。

(宅見佳蓮)

金谷武洋

『英語にも主語はなかった 日本語文法から言語千年史へ』

印象に残ったのが、英語と日本語では他動詞が違うことです。「燃やす」は、何かに火をつけて、火をつけた結果は見えないが、「to burn」は、火をつけた後で、その物が燃えるという結果(到達点)までを含むという、両者の違いがよく分かりました。

(鈴木麻友)





**飯高伸五先生(文化人類学)**

■西江雅之『異郷日記』(2008) 青土社



文化人類学という学問分野は、フィールドでの直接体験から、異文化を(異文化に)学ぶことを手法として重視しています。フィールドワークは長期間にわたります。わたしも、大学院生の頃、約1年半わたって、ミクロネシア地域のパラオ共和国というところでフィールドワークをしました。フィールドワークはチームで行うこともありますが、文化人類学の場合は単身で行うことが多いです。異文化の中にひとり身を置くことでマイノリティになり、そのぶんだけ他者との関わりや周囲に対する感受性が研ぎ澄まされていくような感覚を覚えます。

西江雅之『異郷日記』(青土社、2008年)は、こうして異文化のなかに生きることの醍醐味をよく伝えてくれます。西江雅之は、アフリカ諸語やクレオール語の研究で著名な文化人類学者で、若くしてスワヒリ語文法を発売したことで広く知られています。西江雅之『アフリカのこぼれ アフリカ/言語ノート集成』(河出書房新社、2009年)はこうした研究の集大成ともいえる

でしょう。文化人類学者が研究対象としている異文化について書き表した報告や本のことを民族誌といいます。『異郷日記』は民族誌のような専門的なものではなく、西江が晩年の旅の経験を綴ったエッセイ集です。そのぶん、読みやすく親しみやすいかたちで異文化に身を置くことの醍醐味を伝えていきます。

西江は、昆虫や鳥、小動物の生活に憧れて幼少期を過ごし、本気で動物になりたかったといいます。日本語以外の言語への関心もここから生まれ、高校生の頃には、アフリカ諸語など他地域の言語を独学していきます。こうした異文化への関心の発達について、西江は以下のように記しています。「高校時代に幾つかの言語を独学したのは、外国語を知って世界趨勢に明るくなりたいとか、国際的な生活に憧れたからというのではない。外国語を話す人は、わたしにとってはズメや猫と変わらなかった」。

異文化とはわざわざ物理的に遠くまで移動しなくても身近に存在するものです。西江は生前、世界各地を歩き周りましたが、同時に「自分の皮膚の外側はすべて異郷だ」という態度で外界に対峙していました。西江の異文化に対する態度は常に謙虚で、他者に対してはもちろん、人間に限定されない多様な生物が共生する世界のありようにも、豊かな想像力を働かせていたことがわかります。

## 編集部が先生オススメの本を読みました!



本書では、文化人類学者の西江雅之がこれまでに訪れた“異郷”を13編の構成で紹介しています。あたかも自分がその空間にいるかのように現地の人々の工夫や文化を自ずと感じ取る事ができる1冊です。

例えば、ザンジバルという町では、盗難防止のために日本車に書かれた会社名をあえてそのままにし、走っている多くの車に日本の社名が書かれているという点に驚きました。私たちの生活や文化では驚いてしまうような事も“異郷”に行けば当たり前前の文化であり、そこから新たな考え方や価値観を創造できるお勧めの一冊です。ぜひ読んでみてください (小熊社一郎)

文化学部では、様々な分野について幅広く学ぶことができます。実際に体験して得る知識とはまた違うと思いますが、このような時期だからこそ、本を通じて異文化に触れてみてはどうでしょうか。西江雅之『異郷日記』は、旅の日記を読むように、あまり構えずに読める1冊だと感じました。興味のある方は、ぜひ手に取って欲しいです。

(小石原礼佳)

**吉川孝先生(哲学・倫理学)**

■雑誌『フィルカル』(2016~)

株式会社ミュー



『フィルカル』は、2016年に創刊された雑誌で、哲学の研究者が企画を立てています。このタイトルは、philosophyとcultureという2つの言葉を組み合わせ、[分析哲学と文化をつなぐ]という趣旨を表しています。現代哲学の中心にある分析哲学の立場から、哲学が文化とどのように関わり、文化のなかにどのように位置づけられるのかを考えるため、論文、エッセイ、書評、対談、インタビューなどが掲載されています。現在、1号から5(3)号まで12冊が発行されています。

私は論文を寄稿したほかに、編集委員として映画監督へのインタビュー記事を企画しています。「ブルーフィルム鑑賞者であるとはどのようなことか? 土佐のクロサワのために」という論文が2018年9月の3(2)号に掲載されています。これは、1950年代に高知で撮影されたポルノ映画をめぐる考察です。また、「ドキュメンタリー映画は思考する」というシリーズの企画では、映画監督による映像を通じた思考について、優れた記録映画の製作者たちにインタビューしています。「瀧川あや監督インタ

ビュー「人が生きることを撮る」]が2019年7月の4(1)号に、「小野さやか監督インタビュー「ドキュメンタリー映画のある人生」]が2020年5月の5(1)号に掲載されています。2人の監督は、ある地域に生きる人々取材して、スタッフとともに映画制作する意義や困難について、ご自身の経験から真摯に語っています。大人たちの都合によって各地域に動員させられたり、共同作業をやらされたりしている現代の学生にとって、大きな刺激(衝撃?)となるでしょう。

雑誌全体を通じて、映画のみならず、文学、音楽、ビデオゲーム、SNSの表現など、現代文化の全般が取り上げられています。文化学部で文化を学んでいる皆様にぜひ読んでいただきたいと思います。高知県内では、県立大学永国寺図書館、オーテピア高知図書館に所蔵されています。みなさんの地域の公立図書館にない場合には(読みたい号が入っていない場合にも)、リクエストをしてみましょう。たいていの公立図書館はリクエストを受け付けていますし、いい本や雑誌をリクエストして蔵書を充実させることは、まともな市民の義務とされています。貴重な学生時代だからこそ、大人たちの都合には適当に付き合うくらいにしておいて、書籍とじっくり向きあうことでまともな市民の素養を身につけてください。

## 編集部が先生オススメの本を読みました!



SNSについて扱ったコラムがとても興味深い内容でした。SNSでの何気ない呟きが拡散され、多くの批判を呼んでしまう、現代に住む私たちはよく目にする光景だと思えます。そのような現代社会ならではの問題について、「道徳的運」という言葉を使い、投稿者、拡散者の道徳的責任について哲学的に論じられています。倫理学に興味がある方、SNSのあり方に疑問を持ったことがある方は一読をおすすめします。(長岡生海)

「分析哲学と文化をつなぐ」という趣旨を表すタイトルの通り、哲学の観点から文化に鋭く切り込むトピックを読むことができます。2020年5月の5(1)号に掲載されている「特集「学問と勉強のジェンダー・ギャップ」」に寄せて差別を気にせずにする、マジョリティであること: 牧野あおい「さよならミニスカート」を手がかりに」という特集が目にとまりました。特集の中の社会学者のケイン樹里安の言葉で、「マジョリティとは何か」との学生からの質問に対して「うーん、なにかしんどい状況とか差別が目の前にあるときに、それに気づかずにいられる人とか、気にしないでいられる人とか、その場からサッと立ち去れる人たちのことかな」と答えたことと記されている。この言葉は、差別は数ではなく、社会構造に問題があるということを的確に言い表しているように感じる。この特集は、馴染みのある漫画を切り口として差別に触れられており、読んでいてとても興味深かったです。ぜひたくさんの方々に読んでいただきたい雑誌でした。(川嶋紀子)

# 2020年度 卒業研究タイトル一覧

## 言語文化系

研究室名	卒業研究テーマ
英語学研究室	A Study of Grammaticalization in English
	A Study of <i>To</i> -Infinitives and Gerunds in English
	英語の結果構文における文法的・意味的特徴について
英文学・英文化研究室	嵐が丘 作者と作品の考察
	年代ごとに見る『ガリヴァー旅行記』とイギリス社会思想史
	英国の香りの文化とその変遷 ～ジョー・マローンの人生を辿って～
	民族音楽から読み解くイギリス人のアイデンティティー
	19世紀の工業社会におけるイギリス美術
言語文化研究室	印パ対立におけるイギリスの影響についての考察
	日本語オノマトペに対する母語話者の内省
	地域日本語教育が普及しない要因
	MEANING AND USAGE OF “卍 MANJI”
	職業語の性別から見る性差別への考え方 —日本語とスペイン語の比較—
	日本語学習者におけるアスペクトの誤用分析
	日本語形容詞「かわいい」とは何かを探る
	歌詞を通して見る異文化理解
	The meaning of the Japanese word “Ao” (青) and the English word “blue”
	A Consideration on Elements of Japanese Traditional Religion in <i>Heisei Tanuki Gassen Pom Poko</i> : the Effects of Industrialization in the Postwar on Japanese People's Religious Outlook
国際日本学研究室	A History of American Views on Japanese Food —from Immigrants' Fare to Global Fast Food— (Seeing <i>Alice in Wonderland</i> through Lewis Carroll's life)
	からゆきさんの「経済効果」～明治時代の日星貿易状況から考察する～
	Comparative Study of Student Motivation in English Education in Japan and the Netherlands
	日本のテーマパークにおけるバリアフリーと世界観の共存 —東京ディズニーリゾートの2つのパークに焦点を当てて—
	東アフリカ3カ国の農業作物生産者価格向上における課題 —比較と解決策の模索—
	Russian Drama in Japan: The Reception of Chekhov's Works in Meiji and Taishō Japan
	近現代文学における「桜」の死の象徴性に関する考察
人間存在学研究室	Minimalism and Modern Life

研究室名	卒業研究テーマ
国語教育学研究室	「伝え合う力」を育む中学校国語科における指導の研究 —「話すこと・聞くこと」の観点から—
	国語科教育における ICT 活用に関する研究 —評論文の読解力向上—
	日本語の主語の研究 —コンテキストからみる省略—
	国語科教育における敬語指導の研究 —小学校国語教科書の分析から—
	国語科授業におけるユニバーサルデザインの研究 —中学校教科書のユニバーサルデザインフォントの活用—
日本文学(近代)研究室	中学校国語科における効果的な補助教材の研究 —古典教育で用いるICT教材の開発—
	ゼロ年代作品の主人公たちに課せられた課題 —『ノトル・ロワイアル』の繊細な人間関係—
	キャッチコピーと文学による流行の形成 —三越百貨店の広告戦略を中心として—
	江戸川乱歩「人間椅子」論 —椅子職人の男の変態性欲を中心に—
	三島由紀夫『金閣寺』の焼失 —「私」の内的世界における美学の分析から—
日本文学研究室	木霊が伝える日本のこころ —道徳の礎となる和文化教育の考案—
	「家の遺志」を歩まされる光源氏 —栄達への道の関わり—
	『源氏物語』における「中の品の物語」の方法 —帚木三帖を中心に—
	『源氏物語』「若菜」「柏木」における解体の表現 —対話にみる「認識」の相違—
	『伊勢物語』の「空所」「空白」と「大和物語」の語り —描かれていない「女」の声と描かれた「女」の声—
	『竹取物語』研究 —「穢れ」のもたらす意義を焦点に—
中国文学研究室	とりかへばや物語のジェンダー分析 —女君を中心に—
	「古事記」における「死と再生」の意味 —スサノオに注目して—
	李白詩における月の役割
	中国のシンデレラ譚 —「葉限」を中心に—
	杜甫詩研究 —社会詩を中心に—
	司馬遷「史記」における始皇帝像

## 地域文化創造系

研究室名	卒業研究テーマ
地域政策研究室	セクシュアルマイノリティのコミュニティには何が求められているのか
	高知県土佐市におけるコンパクトシティと持続可能な都市を目指して
	地域公共交通の現状におけるMaaSの可能性とIT格差からみた課題 —高知県高知市を例に挙げて—
	商店街の課題と解決策
	地域特性に応じた廃校舎活用による地域活性化への可能性
	女性の自己実現を目指した起業支援とは
	長浜商店街を維持することはできるのか
	不登校の児童生徒に必要な支援とは —高知県における学校外の居場所や学びの場の調査から—
	高知県における移住と起業による地域活性化の可能性
	高知県における6次産業化と地域の持続可能性について
地学・地理学研究室	日本の都市の災害復興について —関東大震災と阪神・淡路大震災に注目して—
経済学研究室	戦争交渉ゲームで見た日米開戦
	音楽配信サービスがCD売上に与える影響からみる、現代日本の音楽産業におけるCDの販売戦略
	日本のフィットネス人口は増えるのか —総合型と中小規模のフィットネスクラブ—
	アパレル産業におけるインターネット通販の重要性:対面販売とインターネット販売の比較
政治学・政策分析研究室	なぜファストファッションは低価格を実現できるのか:産業構造と生産費用に着目して
	地域の特産品を活かしたインハウスの取り組み —児島ジーンズストリートを対象に—
	子育て支援策は人口増加をもたらすのか —都市と地方の違い—
	離島における産業振興の特徴 —中山間地域との比較—
	地方自治体が行うUターン者向け就業支援 —若者のニーズと合致しているのか—
	地方の観光施設によるSNSの活用と集客:桂浜水族館とのいち動物公園のTwitterを活用した取り組みの分析
	女性が活躍できる地域とは —産業構造に注目した分析—
	中山間地域における被害を最小限に抑えるための災害対策
地方自治体による先進的な高齢者就労支援取り組み事例 —千葉県柏市の分析—	

研究室名	卒業研究テーマ
地域文化・地域づくり領域	セクシュアルマイノリティのコミュニティには何が求められているのか
	高知県土佐市におけるコンパクトシティと持続可能な都市を目指して
	地域公共交通の現状におけるMaaSの可能性とIT格差からみた課題 —高知県高知市を例に挙げて—
	商店街の課題と解決策
	地域特性に応じた廃校舎活用による地域活性化への可能性
	女性の自己実現を目指した起業支援とは
	長浜商店街を維持することはできるのか
	不登校の児童生徒に必要な支援とは —高知県における学校外の居場所や学びの場の調査から—
	高知県における移住と起業による地域活性化の可能性
	高知県における6次産業化と地域の持続可能性について
地学・地理学研究室	日本の都市の災害復興について —関東大震災と阪神・淡路大震災に注目して—
経済学研究室	戦争交渉ゲームで見た日米開戦
	音楽配信サービスがCD売上に与える影響からみる、現代日本の音楽産業におけるCDの販売戦略
	日本のフィットネス人口は増えるのか —総合型と中小規模のフィットネスクラブ—
	アパレル産業におけるインターネット通販の重要性:対面販売とインターネット販売の比較
政治学・政策分析研究室	なぜファストファッションは低価格を実現できるのか:産業構造と生産費用に着目して
	地域の特産品を活かしたインハウスの取り組み —児島ジーンズストリートを対象に—
	子育て支援策は人口増加をもたらすのか —都市と地方の違い—
	離島における産業振興の特徴 —中山間地域との比較—
	地方自治体が行うUターン者向け就業支援 —若者のニーズと合致しているのか—
	地方の観光施設によるSNSの活用と集客:桂浜水族館とのいち動物公園のTwitterを活用した取り組みの分析
	女性が活躍できる地域とは —産業構造に注目した分析—
	中山間地域における被害を最小限に抑えるための災害対策
地方自治体による先進的な高齢者就労支援取り組み事例 —千葉県柏市の分析—	



## ■地域文化創造系

観光文化・観光まちづくり領域	研究室名	卒業研究テーマ
	観光地・観光まちづくり研究室	着地型観光の奏功地域における獲得効果に関する考察 国際観光と日本の航空業界の歩みから見る日本の航空産業の課題 空き家活用の課題と交流空間としての転用例 人が観光に求めるものは何か —伊勢神宮の参詣・観光像の変遷から— 観光地の風景の誕生 —福山市鞆の浦を例にして— 屋外空間における座りスペースの特徴と効果 —丸亀町グリーンけやき広場を例に— 劇場とまちづくりへの一考察 —世田谷区下北沢と宝塚市を事例に— 高知県における地域性を壊さない観光地づくり 費用便益分析から見るIR政策
文化人類学研究室	現代日本における終活と0葬の可能性 ハレの日の食事の比較研究 —日本と台湾における米を使った食べ物に注目して— 神格化された蚕と養蚕業の存続 —高知県の事例から— 現代日本における日本酒の儀礼的側面に関する研究 日本社会におけるジェンダーバックラッシュと広告の中の性別役割規範に対する認識 オネエタレントによる性的少数者への影響 —マツコ・デラックスに注目して— オリエンタリズムの視線と日本のインバウンド観光戦略 現代巡礼の比較研究 —四国遍路とサンティアゴ・コンポステーラを事例に— 中国雲南省におけるエスニックツーリズム持続のためのメディア戦略 —観光対象からの発信— 現代日本音楽の多様化と国民的ヒットの喪失	
居住文化研究室	近世城郭の変遷 —お城の動物園に着目して— 景観保護における高さ規制等の問題と事例に関する研究	
企業分析研究室	自動車産業アフターマーケットの拡大とカーコーティング事業所の生存戦略 フィルムツーリズムによる地域活性化の可能性 ファッション業界と環境問題 ポケットモンスターの人気を利用した他分野の企業とのコラボレーション スマートフォンゲームを通じた観光促進 ソニーの家庭用ゲーム機の現状と今後 音楽業界の現状とライブの非日常性 宗教団体はなぜなくなるのか 猫が及ぼす経済効果とは 高知県におけるカフェの特徴と魅力 食品ロス削減に向けた取組および今後の課題 AdidasとNikeの企業比較 現代人女性の美意識に関する考察 メディア表現によるジェンダー意識への影響 四国遍路を観光資源にすることの課題と展望 日本におけるeスポーツ市場の現状と発展可能性	
哲学・倫理学研究室	ビデオゲームをプレイするとき、プレイヤーは何を感じているのか —プレイヤーの意識についての哲学的アプローチ— アニメ・マンガの性的表現に対する規制は正当か否か —倫理的考察— 武道における「技」の現代的意義 —現象学的身体論の観点から— 同性愛者が子を持つ自由 —J.S.ミルの自由論から考える— 幸福になるために最も重要なこと —徳倫理学と功利主義の比較— AIとどのように接していくべきか恋愛を通して考える —倫理的考察— オールジェンダーフリーの必要性について —LGBT 差別を手掛かりに— 日本におけるジェンダーフリー教育の発展は必要か否か —教育のあり方の倫理的考察— ペットの安楽死について —倫理的考察—	
現代法文化生活文化領域	憲法学研究室 新たな夫婦別姓訴訟の流れ 刑事法研究室 裁判員の精神障害者に対する感情が量刑に及ぼす影響 民事法研究室 侵害コンテンツに通じるリーチサイトの誘導 日本とニュージーランドの育児休業制度の比較 JASRACの音楽教室からの著作権料徴収問題について 転売における取引法の規制と消費者の在り方についての研究	

## ■地域教育研究センター

地域教育研究センター	研究室名	卒業研究テーマ
	教育学研究室	対人コミュニケーション場面における化粧の違い 叱ることを用いた信頼関係の構築 —信頼性獲得に向けた生徒指導— A Comparative Study on Guidance of School Regulations in Japan and United States 子どもたちの職業選択の過程と夢の在り方 —他国との比較から— 中高生のスクールカーストが対人関係にもたらす影響と教師の対応の在り方 教材としての「お笑い」導入の可能性 —笑育の教育的効果— Ideal and Reality of Assistant Language Teacher in Japan Comparison of Primary School English Education between Japan and South Korea 日本における国公立大学入学者選抜試験の課題と展望 —韓国と比較して—
教育心理学研究室	幼少期における家庭環境が青年期の人格形成に及ぼす影響 —フォーカスグループインタビュー (FGI) 調査から— 高知県におけるインクルーシブ教育構築を考える —放課後等デイサービスにおける参与観察を通して— 国語科におけるアクティブ・ラーニング導入の効果 —効果を生み出すために必要な教師の支援のあり方とは— 学級における生徒の満足度とその向上に向けた教師の働きかけ —「Q-U」(QUESTIONNAIRE-UTILITIES)との関連から— 教員の「ほめる」アプローチが生徒に与える影響 —「ほめる」側に求められる資質・能力について— 特別支援学校における自閉症スペクトラム障がいの子供に対する進路指導 高知県における不登校支援の取り組み —高知市教育研究所での参与観察から考察する居場所づくりの効果—	

■CHLL

小石原礼佳

文化学部の魅力を伝えることを目的とする『文化の力』ですが、今回の特集は“コロナ禍の大学”です。実際に新型コロナウイルスの影響を受けながらの制作となり、オンラインも活用しつつ工夫しながら作業を進めました。これまで読み手側にしか立ったことが無かったため、企画や原稿依頼、編集など難しく感じることが多かったですが、グループで協力して形にしていく作業は面白く、良い経験になりました。また、今回ご協力いただいた先生方や文化学部生の皆様に感謝します。本当にありがとうございました。

小熊壯一郎

『文化の力』を作るにあたって1番大変だと感じた事は、「文化学部の魅力をどのように伝えるのか?」という点です。そこで、大切にしたい考え方は「文化学部ならではの特色を活かす企画を考える」という事です。私は、「コロナウイルス ×○○」という企画を担当し、先生方に原稿を書いていただきましたが、文化学部ならではの研究分野を念頭に置きながら書いていただく先生を決定いたしました。文学や法律と絡めながらコロナウイルスについて執筆していただき大変興味深い内容となっています。ご協力いただいた先生方、ありがとうございました。皆さんもぜひ読んでみてください。

川嶋紀子

『文化の力』の制作に携わるなかで、誌面のコンテンツ考案、原稿執筆依頼や編集、レイアウト作成など、初めての作業ばかりでとても難しかったです。雑誌作りの大変さを身をもって経験したと共に、チームメンバーとの連携、先生方に協力していただいたことによって仕上げる事ができたのだと感じております。携わっていただいた全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。そういった面でも、改めて文化の力を感じられました。たくさんの方々に手に取っていただけると嬉しいです。

鈴木麻友

雑誌を制作すると聞いたときは、本当に作れるのか不安でしたが、グループメンバーと協力して、企画提案、原稿依頼などの作業を進めることができました。制作を通して、文化学部の魅力に気づくことができました。たくさんの方がこの雑誌を読んで、文化学部の魅力を知ってもらえると嬉しいです。雑誌制作にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

宅見佳蓮

『文化の力』の作成は、私にとって貴重な経験となりました。企画・原稿依頼等の編集に関わる、一連の流れを私たちが中心となって行うなかで、読者の視点で、読みやすさを追求する点に雑誌作成の難しさを感じました。しかし、グループでの意見交換を重ねることで、ターゲットとする読者が学生やこれから入学する方々に向けたものであることを明らかにし、フランクな気持ちで読み進めることができる内容に仕上がったのではないかと思います。さらに、編集者である私たち自身が県立大学について理解を深められた時間になりました。最後に、雑誌作成にあたり、快く協力してくださった先生方、学生の方々、貴重な時間を頂きありがとうございました。

長岡生海

グループで作業を分担しての記事作成となりましたが、私は主に記事執筆者との連絡作業を担当していました。わかりやすく、それでいて失礼のないような文章を作るのは難しい作業でしたが、自身にとって良い経験になりました。文化学部の魅力を感じてもらうことを目的に作成したため、読者の皆様にはそのように感じていただけたらと思います。記事作成にご協力いただいた方々、読者の皆様に心より感謝いたします。

■SHIMIZU-A

石黒天芽

今回の『文化の力』の制作に携わせて頂き、改めて高知県立大学の文化学部はどのような学部なのか、コロナ禍の大学生活はどのようなものだったのかを考え直すとてもいい機会になりました。企画を考えたり対談の文字起こしをしたり締切に追われたり大変なことも多かったですが、1回生の方たちと対談できたことはとても良い経験になったなと思います。忙しい中、学生対談を引き受けてくれた1回生をはじめ、制作に協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

大西率々

今回、私は主に学生対談に携わりました。1回生と関わる機会がほとんどなかったため、とても貴重な体験になりました。『1回生同士の情報共有の場になればいいな』という思いを込めつつ、コロナ禍で始まった新生活という私たちとは違う苦労をした体験について知ること、知ってもらうことを目的に取材しました。今しかできない記事が出来たのではないかと思います。今回お世話になった先生や協力してくださった方々に感謝申し上げます。

濱口美咲

今回、『文化の力』の作成に参加するにあたって、普段は関わる機会がない1回生の対談が行えたことやグループメンバーと協力していくつかの企画を考えることができ、とても良い経験になりました。コロナウイルスの影響で対面授業が厳しく、作業を進めるのも大変でしたが、無事に完成したのを見ると自分たちの考えていたことが形になっているのを実感しました。企画立案段階で助言してくださった先生、原稿を書いてくださった先生、対談を引き受けてくれた1回生、また一緒に作業を行ったグループメンバー、その他にもご協力いただいた皆様に感謝します。

濱吉陽菜

「コロナ禍の大学」という大きなテーマのもと、この年に『文化の力』の制作に携わることができて良かったです。例年とはまた違った、学生目線で捉えた新しい文化学部の姿を今年の『文化の力』にたくさん詰め込んでいるので、これから文化学部の受験を考えてくれている方や高知県立大学に興味を持ってくださっている方々に見てもらいたいなと思いました。制作にご協力してくださった皆様、ありがとうございました。

■石山・宇都宮ゼミ

児玉千果

『文化の力』を作成するなかで、コロナ禍での大学がどう変化したか、それに対して各々がどんな想いを抱いているのかが少しずつ明らかになってきたかと思われまます。普段何気なく読む雑誌の一面を作るだけでも、多くの時間と労力、そして協力が必要となってくることをこの機会に学ばせていただきました。作成にあたりご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

齋藤花梨

今号で主にオンライン授業批評会を担当した齋藤です。大学での対面授業が控えられるようになった去年、学生や大学の外からはオンライン授業に対するマイナスの意見をよく目にしました。しかしながら不思議なことに、この事に対して先生方の視点から語られることは少なかったように思います。そこでこの企画では先生方からコメントをいただき、読者の皆さんがオンライン授業に対し多面的な考えを持てるような構成にしました。この記事を読むことで皆さんに大学で学ぶとはどういうことなのか、考えを膨らませていただけたら幸いです。

藤林彩乃

『文化の力』作成に携わる中で、企画から原稿依頼、編集やレイアウトまで同じグループのみならず、沢山の先生方や文化学部生の皆さんに協力して頂き、一つの企画を形にするためには、多くの方々の協力が必要であることを実感しました。またコロナにより思うように作業が進まないこともありましたが、グループで工夫して話し合ったり、何を伝えたいのかなど自分たちの考えやこだわりを大切にしながら企画を完成させることができ、貴重な経験ができました。制作にご協力頂いた皆さん、ありがとうございました。

別役来望

本誌を作成中、大学に4年間も通っていながら、大学のことを知らないなど感じる事が多々ありました。また、雑誌の1ページを作成することにたくさんの方々の協力が必要だということを実感することができ、良い経験になりました。取材にご協力いただきました皆様、心より感謝申し上げます。

■清水B

比江森佳子

文化の力の作成を通して、一つのものを形にする大変さを痛感しました。そして、生活のいろんなことが文化に繋がっているということに改めて感じられた経験でした。協力してくださった方々のおかげで形にすることができたので、お礼を申し上げます。有難うございました。

弘瀬ほのか

『文化の力』制作という初めての経験で、不安もありましたがいろいろな方の協力を得て形にすることができました。私は文化学部について考えるのは受験の時以来でしたが、改めて「魅力ある学部」だと意識するようになり、より多くの方にこの冊子を読んで文化学部の良さを知って頂きたいと思うようになりました。今回も受験生や地域の方にも読んでみたいと思って頂けるような仕上がりになりました。ご協力ありがとうございました。

藤田琉花

専門演習を通して、先生の意外な一面や皆の地元について、就活の疑問など、様々なことを知ることができました。編集などの作業は大変でしたが、皆と沢山話し合う機会ができて以前よりも仲が深まったと思います。最後に、インタビューなどにご協力くださった皆様、ありがとうございました。

政木美里

今回の『文化の力』制作にあたって、文化学部を知ってもらうために改めて考える良い機会になりました。多方面から文化学部を感じることができ一冊になっていると思います。また、本制作に携われたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。最後に、この度の制作にあたり、ご協力いただきました沢山の方々に感謝申し上げます。

吉川真布

文化の力の作成を通して色々な視点から文化について振り返り、考えたことで、改めて「文化の持つ力」を感じました。また、企画の趣旨や魅力を少ない分量の中にどのようにしてまとめるか、など経験のない作業ばかりでしたがとてもやりがいのある作業でした。最後に各企画にご協力いただいたみなさま、文化の力を手に取っていただいた皆様にお礼を申し上げます。

宇都宮千穂(指導教員)

今年度は、コロナ禍のなかでの制作となりました。通常講義はもちろん、グループワークや研究発表会、映画上映会、フィールドワークなど、ほとんどすべての教育研究活動に制限がかけられました。しかし、そんな中でも大学では教育・研究を継続しています。学生も教員も試行錯誤を繰り返しながら過ごした1年でした。コロナ禍にある大学の貴重な1年の記録を、ご覧ください。



## 大学的高知ガイド — こだわりの歩き方

土佐高知には、こんなにも豊かな文化・歴史があったのだ！

小松和彦（国際日本文化研究センター所長）推薦

この本を携えて、土佐の海と山、東と西、伝統と創造、  
祭事と日常生活等々、多様で対照的な自然と文化が織りなす、  
驚きいっぱいの高知県を巡り歩き、学び極めよう。



高知県立大学文化学部編  
昭和堂 2019年  
本体価格 2,300円  
ISBN 9784812218174

### 目次

#### 第1部 まちをあるく

高知城一天守は復古形式と新しい手法の統合か（三浦要一）  
高知城と高知県庁を見ながらまちを歩く（清水直樹）  
「新聞の葬式」にみる高知と自由民権（ヨース・ジョエル）  
旭町「いま」と「むかし」を歩く（宇都宮千穂）

#### 第2部 歴史文化を訪ねる

土佐ことば(高知県方言)（橋尾直和）  
「土佐日記」の史跡探訪・聖地巡礼（東原伸明）  
土佐の清流文学（芋生裕信）  
高知漢詩散歩（高西成介）  
いざなぎ流と土佐の神楽（梅野光興）  
長宗我部氏の居城—岡豊城から浦戸城へ（宅間一之）  
ジョン万次郎の捕鯨一浜の鯨と沖の鯨（山口善成）  
坂本龍馬関連施設のみどころ（亀尾美香）

#### 第3部 食と自然を旅する

高知市内の災害と寺田先生の気配に出会う（大村 誠）  
高知の庭の物語（小長谷悠紀）  
食を通じたまちおこし（梶原太一）  
トウモロコシと山のくらし（川上 香）  
大川村の謝肉祭（飯高伸五）

#### 第4部 暮らしから学ぶ

民具とまちおこし（橋尾直和）  
なぜ、今、「市」なのか—顔の見える「小さな経済」（宇都宮千穂）  
戦前の移住地に映る高知県漁民の暮らし（吉尾 寛）  
いろは丸と海難審判（菊池直人）  
高知の人々と憲法（岩倉秀樹）  
地方交通と農山村のみどころ（井本正人）

ほか「高知県立高知城歴史博物館」「高知市立自由民権記念館」などコラム多数

## 文化の力 Vol.5

2021年3月31日発行

発行 高知県立大学文化学部  
〒780-8515 高知市永国寺町2番22号

印刷・製本・デザイン  
有限会社 近森膳写堂

